

# 徳山高専だより

特集1 地域と共に歩む徳山高専 徳山高専チャレンジショップ 続・高専夢広場 P.1

特集2 第28回高専祭 メインテーマ「花咲かす」 P.9

P.5 テクノ・アカデミア創立5周年記念式典

P.7 JABEEってなあに

P.8 独法化ってなあに

P.15 全国プログラミングコンテスト

P.17 全国高専ロボコン2002

P.19 創造演習発表会

P.21 卒業生だより

P.23 就職進学状況

P.26 就職試験体験記

P.27 5年間の高専生活を振り返って

P.29 CA4研修旅行

ハワイからALOHA

P.31 資格取得状況

P.33 発明コンテスト

P.34 クラブ紹介 卓球部

P.35 私の研究

P.36 地元企業紹介 東洋鋼鈑

P.37 土木の日コンテスト

P.38 里山づくりと炭焼き

P.39 街角ウォッチング

P.41 退官者紹介

P.43 新任職員紹介・トピックス

P.44 編集後記

# SPARK

徳山工業高等専門学校  
Tokuyama College of Technology

徳山高専だより No.56

発行 広報委員会

所在地 〒745-8585 山口県徳山市久米高城3538

TEL (0834)29-6200(代表)

印刷 大村印刷(株)

発行日 2003年(平成15年)2月12日

URL <http://www.tokuyama.ac.jp/>



P.6 周南産学官交流会



高専ロボコン製作スタッフ

徳山高専チャレンジショップ続・高専夢広場  
地域と共に歩む徳山高専

徳山商工会議所のまちづくり機関「TMO徳山」が徳山市銀座旧サティ2階にチャレンジショップとくやま『街あい』をオープンしました。飲食・食品、物販・展示、サービスなどの21店舗が集まっています。徳山高専もこの一角を借り受け、高専夢広場を開設しました。これは、本校が社会に認められるためには、学校の活動を広く社会の目にさらし、社会のものさしで評価していただくためです。ここでは色々な展示や催しをし、学校をPRしています。前号に引き続き活動の様子を紹介します。

■各部門の展示の紹介■

テクノ・リフレッシュ教育センター

これまでに、8月18日(日)～8月24日(土)、11月3日(日)～11月9日(土)の2回を担当しました。

1回目の企画は、次の内容で構成しました。

1. センター及び徳山高専テクノ・アカデミア紹介スライドの上映
2. 高専で行われた公開講座の紹介
3. テクノアカデミア共同研究事例の紹介
4. テクノアカデミア会員企業の紹介

2回目の企画も1回目とほぼ同じ内容で構成しましたが、共同研究事例の紹介の代わりに徳山高専の研究室で行われている研究を紹介するコーナーを設けました。



◀テクノアカデミア会員企業の紹介コーナー

一般の方の関心は今ひとつと言う感じがしました。しかし、その中で生活に密着したサービスを提供している会員企業の展示には足を止める方が多く、展示内容の選択次第ではもっと関心を持って頂くことができたのではないかと思います。



# 特集1 地域と共に歩む徳山高専

## 機械電気工学科の展示

8/25(日)～8/31(土)は機械電気工学科の企画として、スターリングエンジン、学生製作ロボットなどの展示を行いました。名付けて、「大トロ、中トロ、メカトロ こんなかでいっちゃんおいしいのは?」。メカトロニクスとお寿司を引っかけたタイトルを、果たして何人の来場者に気付いていただけたか定かではないが、やはり動いて触ったりできる製品が人気のようなのでした。

まだまだ、夢広場は始まったばかり。地域の方と情報の交流ができる場として、また、学生が自己表現できる場としてもっと活用できるように、知恵をしぼる日々です。



デジカメ  
クラブ高専にも  
来てね!



## 情報電子工学科の展示

9月1日～7日と12月8日～14日までの2回を担当しました。初回は全国プログラミングコンテスト体験コーナーで、いろいろな形のブロックが箱にきれいに収まるか、ブロックを置いて訪問者に挑戦してもらいました。また、卒業研究で製作した電光掲示板にパソコンから希望のメッセージを書き込みました。小学生や中学3年生が訪れ説明を聞いたりしていました。



2回目は、ハードウェア部門からは、ボードを用いた電子ルーレットや最近広く使われるようになったFPGA(動作を自由に変更できるIC)を使った電子回路を展示実演しました。また、ソフトウェア部門からは、日々の減量を計画的に実行するための支援ソフト「Daily Diet」を展示実演しました。このシステムは本年度全国高専プログラミングコンテストにおいて敢闘賞を受賞したものです。



### 企画のスケジュール

- ・10/13(日)～10/18(金)：機械電気工学科企画
- ・10/19(土) 10/20(日)： のんた祭特別企画  
( 藍染め体験教室 )
- ・10/21(月)～10/26(土)：文化系倶楽部企画  
( 写真、茶道、文芸部 )
- ・10/27(日)～11/2(土)：学生会企画
- ・11/3(日)～11/9(土)：テクノ企画  
( 11/9(土) 11/10(日)：高専祭 )

- ・11/10(日)～11/16(土)：寮学生会企画
  - ・11/17(日)～11/23(土)：土木建築工学科企画
  - ・11/24(日)～11/30(土)：美術部企画
  - ・12/1(日)～12/7(土)：一般企画
  - ・12/8(日)～12/14(土)：情報電子工学科企画
  - ・12/15(日)～12/21(土)：テクノ企画
  - ・12/22(日)～1/6(月)：ロボコン展示  
( 冬休み中 )
- 1月以降については改めて決定します。

## 土木建築工学科の展示

土木建築工学科は「地域とともに行動する土木建築工学科」をキャッチフレーズに、これまで2回のチャレンジショップを担当しました。

初回（9/8～14）は、学科紹介パネルの展示、測量に関するパネル、機器展示を行いました。また、土曜、日曜にはイベントを開催しました。測量展示では伊能忠敬が作成した周南地域の地図が好評で、来場者から地図のコピーをいただきたいとの連絡がありました。イベントでは光波距離計による距離当てクイズ（9/8）、竹とんぼ製作教室（9/14）を開催しました。竹とんぼ教室では、木村武馬教官に竹とんぼの製作を指導いただきました。小学生約50人の参加があり、午前10時から午後4時まで、竹とんぼ作りに熱心に取り組みました。



2回目（11/17～23）は、初回と同様に学科紹介パネル展示とイベントを開催しました。イベントでは、「水」を題材にした「チャレンジ! the 水」（11/17）と茶杓作り教室（11/23）を開催しました。



「チャレンジ」では、利き酒ならぬ利き水で徳山の名水「遠石の宮水」を当てるゲーム、一円玉を水面に1分間に何個浮かべられるかというゲームを行いました。「遠石の宮水」ゲームでは、最初に「宮水」を飲んだ後、市販のミネラルウォーターと「宮水」をあわせた計5本のペットボトルの中から舌を頼りに名水を探していただきました。総数50人程度の方が参加され、飲んで首をかしげ、首を傾げてはまた飲むということを繰り返し、名水探しをする光景がほほえましいものでした。一円玉を水面に浮かべるゲームは、水の表面張力を使うもので小中学生に大変喜ばれました。

## 高城寮の展示

チャレンジショップ「高専夢広場」へ高城寮から参加するよう要請があり、CA4年の白銀君を代表者として、寮を紹介する企画に取り組みました。

1回目の担当は、9月15日から21日の期間で、高城寮における各種年間行事や、在寮留学生の故郷を写真で紹介するポスターを展示しました。ポスター作成では、1、2年の寮生と留学生が中心となり、寮務主事補の池田光優教官指導のもとに、夜遅くまで作成に取り組みました。



夢広場での  
設営風景

2回目の担当は、11月10日から16日の期間でした。夢広場の設営の日が、高専祭に重なる日程となり、準備が大変でした。3、4年生が中心となり作成した寮施設の紹介ポスターと寮ベッドの展示により、寮の生活空間の雰囲気再現しました。

## 特集1 地域と共に歩む徳山高専



留学生の  
故郷紹介

いずれも展示だけの企画とはなりませんが、寮生だけでのチャレンジショップへの取組みで、寮生の連帯意識が感じられました。また、高城寮からの情報発信として良い機会となりました。



情報電子工学専攻  
の竹重さんの発表

### 専攻科の展示

10月2日、夏休みに行った4週間に渡る企業におけるインターンシップと、オーストラリアでの1ヶ月の語学研修の報告会を開催しました。パネルを各人が作成して展示すると共に、インターンシップでお世話になった企業の方や、学生の前で発表をしました。30名程度の参加者があり、企業の方にも活発な意見を頂きました。



企業の方も  
参加

- このような場所があるとは全然知らなかった
- またいつかこのような催しを開催して欲しい（物理実験を体験した方）
- とても良い思い出になりました（デジカメクラブで撮影された方）
- 高専制度自体よく知らなかったが、パンフレット等を見て多少理解した
- ユニット（サイコロ）を是非譲って欲しい
- ここだけでなく、出前講義（中学校、企業等へ）してもらえないか？
- 学校へは行きにくいですが、ここなら気軽に立ち寄れる
- まだまだ情報が不足しているので、今後も情報発信して欲しい
- 非常に参考になりました（他高専の教官が来店）
- 場所が良くないのでは？
- 学校案内や各種パンフレット、募集要項等がもらえて非常に参考になる
- 学校でIT教室を開催して欲しい（機器は整備されたが、詳しい教諭がいない）

### 来店者からの 言葉



# 徳山高専テクノ・アカデミア 創立5周年記念式典

テクノ・リフレッシュ教育センター／テクノ・アカデミア

参事：一色 誠子・国重 徹（一般科目）

11月30日、地域の発展や若手技術者の育成を目的に設立された、地元企業と徳山高専の交流の場である「徳山高専テクノ・アカデミア」が5周年を迎え、記念式典がアド・ホックホテル丸福で開かれました。産学官からの来賓を始め、テクノ・アカデミア一般会員・特別会員など、81名が出席し、盛大な式典となりました。

式典では、テクノ・アカデミア会長：小野英輔氏（サマンサジャパン（株））、天野徹徳山高専学校長の挨拶に続き、来賓の上符正顕氏（山口県商工労働部長）より祝辞をいただきました。また、特別功労者表彰として、テクノ・アカデミアの設立に尽力された、大山超氏（前テクノ・アカデミア会長）に感謝状と記念品の贈呈がありました。式典の最後には、山田英巳徳山高専テクノ・リフレッシュ教育センター長が、この5年の歩みと成果を5周年記念冊子で示しながら報告しました。



テクノ・アカデミア会長 小野 英輔氏

式典に続き、政策研究大学院大学橋本久義氏を講師に迎え、記念講演が行われました。「中国vs日本——中国の強み、日本の底力」と題した講演では、<橋本流身体で感じた日本の中小企業と中国の現在>を、その明快な分析と時にはジョークを交えながらの巧みな話術で話され、聴衆は瞬間に橋本氏の世界に引き込まれていきました。講演最後には、「不況である今は、身を縮めて耐える

時期ではあるが、振り子は必ず戻ってくる。戻ってくる振り子を見逃さないでいると、必ず報われる。」と、力強いことばで話を結ばれました。



政策研究大学院大学 橋本久義氏

その後、祝賀会が開かれ、徳山市ツリー祭りの点灯式を終えた、河村和登徳山市長が出席され、祝辞をいただきました。会は、盛況の中お開きとなりました。



河村 和登 徳山市長

今後徳山高専にとって、テクノ・アカデミアとテクノ・リフレッシュ教育センターの役割は、ますます重要なものになるでしょう。この式典はさらなる発展をするために、今後何をすべきか・何ができるかを考えるよい契機となりました。

## 周南/産学官交流会

**日時** 平成14年11月30日(土) 13:00~17:00

**場所** 徳山市市民交流センター多目的広場 (JR徳山駅ビル2F)

近年、産学官連携による新産業の創出が国際的な競争時代を切り開く推進力になるとの期待が高まりつつあります。本交流会は、このような「産学官交流によるシーズ・ニーズのマッチング」を図るための場を提供するため、山口大学と宇部高専の協力を得て、徳山高専と(財)やまぐち産業振興財団により企画されました。当日は、産学官連携による新産業創出に関する講演および大学・高専で進められている研究テーマの発表を行うとともに、各研究室の研究活動や地元企業の事業等を広くポスターパネルを用いて紹介するセッションが設けられ、会場は約100人の参加者で賑いました。

### 「感性のモデル化と産業界への応用」

機械電気工学科 助手 大西 巖

人間の感性を計測する方法、ニューラルネットワークを用いて感性をモデル化する技術について説明し、その応用事例を紹介しました。人間の感性がコンピュータ上で再現できれば、人間とコンピュータとのフレンドリーな対話が可能になります。さらに、従来のハード・ソフトウェアが不得意としてきた、人の「心を満たす」、「心を癒す」ことができる、ヒューマンインターフェース、デザイン支援システム、絵画、音楽などの感性教育支援システムが実現可能となります。

図は応用例の1つであり、音楽に対する聞こえかた(感じ方)と脳波および血流の関係をモデル化することによって、ユーザーの心理・健康状態を非拘束かつ短時間で診断するシステムです。

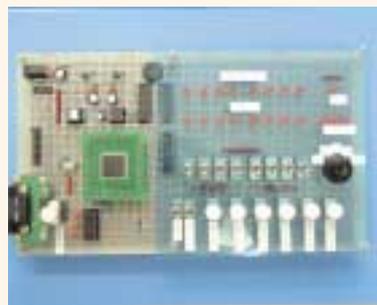


図 心理・健康診断システム

### 「教材用マイクロコンピュータの研究開発」

情報電子工学科 講師 重村 哲至

情報系の教育機関で使用するための、教材用マイクロコンピュータを開発しています。コンピュータの専門家を目指す学生は、動作原理を理解することが必要と考え、コンピュータの内部構造を意識した演習を行います。しかし、最近、身近に使用できるパーソナル・コンピュータは高度化・複雑化したため、コンピュータの原理を理解するための教材としては不適切なものになってきました。そこで、動作原理の理解だけに目的を絞った専用コンピュータの開発を思いつきました。今回は、このようなコンピュータの必要性、開発状況、我々の学科での採用予定、製品化に向けた「夢」等を発表させていただきました。発表後、個別に数人の方から質問や励ましの言葉をいただき、大変うれしく感激いたしました。このような発表の機会を与えていただき、ありがとうございました。



### 「現場打ちコンクリート養生装置の開発」

土木建築工学科 助教授 田村 隆弘

コンクリート構造物に発生するひび割れは、美観はもとより耐久性・水密性などの諸性能においてマイナス要因であり、技術者のみでなく最近では社会問題としてメディアでも取り上げられています。ひび割れ発生の原因は多岐に渡り容易に解決できない問題ですが、若材齢時でのコンクリートは、引張強度が極めて小さく、内部・外部の拘束応力に対するの抵抗力は無に等しく、施工においては最も注意を要するところです。

本研究では、さまざまな条件のもとで施工されるコンクリートの適切な養生システムの開発を目指した試験的研究を行い、さらに実施工での採用を試みました。



# JABEE

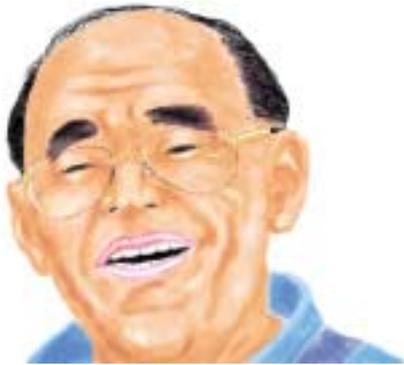
ジャビー  
ってなあに

## メジャーな評価で 大きな発展を!

専攻科長 森野 数博

### なぜ、できたの？

いま日本は、世界経済のなかで厳しい状況におかれています。外貨を獲得するには国際的な入札やプロジェクトに参画する必要がありますが、そのためには相応の資格が求められてきています。残念ながら、それに十分対応できる体勢に日本はなっていません。技術教育の質的向上をはかり、国際的に認められ、通用する技術者をつくるため、J A B E Eができました。



### J A B E Eとはなに？

J A B E Eとは、日本技術者教育認定制度の英文名の頭文字をとってできたことばで、従来主として高専が進めてきたような「技術者教育のプログラム」を評価・認定する制度です。「技術者教育」とは専門の知識だけでなく、人間としての素養が求められています。「教育プログラム」とはカリキュラムだけでなく、卒業生の質（Outcomes）が問われており、入学から卒業までの教育プロセスすべてを含めたものです。認定はそれらの「プログラム」に対して行われ、その構成員が有資格者となります。本校では全体がひとつのプログラムで申請しており、専攻科修士生全員が有資格者となります。

### 認定されればどうなるの？

プログラムの出身者は、4科目に増えた技術士の第一次試験を免除され、自動的に修習技術者に

なるとともに、品質保証された技術者ですので、相対的に地位が向上し、給与を含め、企業で優遇されることは容易に理解できます。もちろんそのプログラム（徳山高専）の社会的評価が高まるわけですので、専攻科生のみならず、他の学生諸君の就職・進学にも大きく影響するでしょうし、教職員、ひいては卒業生までもその恩恵を受けることになるでしょう。また、国際相互承認協定（ワシントンアコード）への加盟が認められると、アメリカやイギリスなど加盟各国の大学を卒業したとまったく同じ資格を得ることになります。

始動して間がないのでその効果はまださほど顕著ではありませんが、J A B E Eの認知度の高まりおよび国際的な相互承認がなされるにつれ、有利さは明白になりましょう。このことは、自由と責任が生じる独法化のなかで、組織が生き残りうることを意味しています。

### どんな審査を受けるの？

審査の基本的な考えは、申請校の技術者教育をよりよくすることです。認定・審査には、該当する学協会から任命された審査員3～4名があたります。審査は、自己点検書をもとに実地審査を併せ行い、そこに書かれていることが本当かどうかをチェックすることで、授業参観や答案調査、学生諸君や教職員の面接などが行われます。なかでも学生諸君の面接が最大のポイントで、それではほとんどそのプログラムの実態がわかるといわれています。なお、認定の可否は、卒業生の能力の程度が、教育研究環境も含め、国際的水準に達しているかが判断の基準となっています。

### そして・・・

大学と比べ、高専は優れている点が多いと高専を知る人は言います。しかし、世間にその実体が広く知られていないのもまた事実です。J A B E Eの受審は高専の良さをPRする絶好の機会です。メジャーな評価で大きな発展を望みたいですね。

# 「高専法人化」の時代を迎えて

将来計画委員会委員長 大成 博文

独法化  
ってなあと

## 高専法人化

2005年から、日本の国立大学は、「大学法人」になるとされ、そのための法律準備が政府によって進められています。これに準じて、高専においても、その法人化問題が検討されています。

この法人化とは、従来の国による運営から、「独立行政法人」と呼ばれる組織に変わることを意味します。その特色は、国の運営から独立して、これまで以上に自由に教育と研究に取り組める裁量を与えられるようになりますが、その分、責任も生まれることにあります。

## 設置形態

まず、その設置形態ですが、現在、①全国1法人、②地区ブロックごとの法人、③1高専1法人の3通りについて審議がなされています。3月までには、その形態が決められるとされていますが、①および②の場合には、「徳山工業高等専門学校」という校名が変更されることとなります。

この法人化に備えて、将来計画委員会では、「中期目標と中期計画」の立案を検討しています。この目標と計画づくりでは、2004年から7年間にわたる中期と毎年の両方において、教育、研究、地域連携、財政などの項目における具体策が検討されています。

## 経営責任

さて、法人化が実現されると、高専には、教育・研究のほかに、「経営」の責任も付加されます。この経営では、予算配分、外部からの資金の確保、人事、学内の意思決定プロセスなどの問題が重要となります。

そこで、これらの問題に効果的に対応するために、学内の運営のあり方についても重要な審議が始まっており、その目玉として、天野校長から提案された「総合企画室（仮称）」の設置問題が検討されています。

## 企画室構想

この企画室では、教育、研究分野における「起業」の立案・斡旋のほかに、外部資金の確保を中心とする「経済的起業」の立案も検討される予定です。教育的起業では、教科書や教材づくり、研究的起業では、企業との共同の技術開発とその特許化、ベンチャー企業の設立などの支援が考えられます。経済的起業には、学生や卒業生のみなさんによるベンチャー企業化の支援も含まれます。企画室では、これらの起業に関する基本計画の立案やコーディネートの仕事が行われる予定です。



## 徳山高専の将来

以上のように、高専が法人化されることによって、本校の教育、研究開発が全面的に発展する可能性が生まれますが、その積極的な対応を怠ると、逆に徐々に後退を招く危険性もあり得ます。

要は、今まで以上に、学生のみなさんと教職員が力を併せて、教育、研究、経営に積極的に取り組み、その実績を着実に積み重ねて、しっかり地域に基盤をつくることが求められるようになります。

# 第28回 高専祭

メインテーマ  
「花咲かす」

特集  
2



今年の高専祭のテーマは「花咲かす」でした。普段は形にはなっていない若者の情熱と、それを支えてくれる周囲の方への感謝、というものの2つを、高専祭という舞台上で形にしよう、という意味でこのテーマを選びました。

意気だけはあったのですが、取りかかるのが遅くなってしまったため、実行委員に凄い負担をかけることになったばかりか、当初計画していたイベントで、実行できなくなってしまったものもありました。さらに、当初はやらないと決定していた空缶モニュメントを、急遽やることになり、美化部長の原田君には休日返上で働いてもらうことになってしまいました。

他にも多くのトラブルがあり、さらに天候にまでたたられ、PAから「この天候ならスピーカーは使えないよ」と言われてしまいました。そこで、夜中に軽音部と実行委員を集めて話し合いをし、当日の朝雨がふり、中止の危険がある以上、屋内でやるしかないと議決したのですが、ステージ部長の三浦君からの「昼間の企画は全て潰してでも、屋外でやろう」という電話で腹が決まり、PAとの交渉の結果、雨天の場合は開始を延期するという条件付きで野外ステージにスピーカーを置くことが決まりました。

ドキドキしながら迎えた当日の朝は、少し雨が降りましたがすぐにやみ、予定通り野外ステージですべての企画を行えました。ステージの企画は大変盛り上がり、見ていた人にも「飽きなかった」という言葉を貰いました。また、目立たないところでしたが、物品管理や駐車場整備も大変がんばってくれ、大きな事故もなく高専祭を終了できました。

みんなが本当に頑張ってくれたお陰で、去年にも見劣りしないほどに良い高専祭となりました。支えてくれた多くの皆さん、本当にありがとうございました！



実行委員長  
土木建築工学科4年

竹山 広志

### ステージ 企画

機械電気工学科  
4年 三浦 直人



2日目のCA3のダンスは、それぞれの日のメイン前だったので、盛り上げてくれたみんなにとても感謝しています。カラオケ大会は、出場者がほとんど集まらなくてとても苦労しました。校長先生が出てくださるということを知ったときは、少し感激しました。



他の出場者のみなさんも、本番で盛り上げてくれたので感謝です。CA3のダンスは、どの程度できているのかをあまり知らなかったため、本番前まで少し不安でした。しかし大勢の観客と一緒に、みごとなダンスを見たときはCA3に任せてよかったと、心から思いました。

準備のときは大変の連続でした。でも、つらい経験はいい経験です。いい思い出がまた一つ増えました。



### メイン 企画

情報電子工学科  
4年 大川 葉子



一番に言いたいことは、今回のこのメイン企画は本当に苦労した、ということです。

メイン企画というもの自体が今年初めての試みであり、ステージ企画でも、メイン制作でもなく、高専祭のメインになるようなことをしようということで、まず何をやるかを決める段階で悩みました。

ファッションショーに決まってからも細かい問題が多く見付き、少し後悔したこともありました。舞台や音楽の手配、モデルや服の製作者などの人集め、ステージ企画との折り合い等々、全てにおいて大変で、私はもともと人の上に立つて指示することが苦手で、リーダー性なんて持ち合わ

せていないので、余計に気苦労が絶えませんでした。人を動かすということは、物を扱うのとは全く違うことをこの時ほど実感したことはありませんでしたし、またこの機会がなければ気づけなかったかもしれません。私の右腕となって共に頑張ってくれたCA4の椛山さんにも大変な苦労をかけたと思います。

本番直前まで常に、本当に成功できるか不安でいっぱいでした。しかし、予想以上に成功したこの企画を、今はやってよかったと心から思います。みなさん本当にありがとうございました。



## 物品 バザー一部

機械電気工学科

4年 渋谷 誠司



今回の高専祭は、今までとは少し違った高専祭でした。今までは、学生会の作った高専祭に参加する立場だったのですが、今回は学生会として、高専祭をみんなでつくりました。

物品バザー部として、高専祭で使うものを用意し、各バザーが成功するように様々な仕事をしました。大変でしたが、やりがいのある仕事でした。当日、電気のブレーカーが落ちバザーの人に迷惑をかけましたが、それ以外に大きな事故もなく、ほっとしています。

ステージも大いに盛り上がり、今年の高専祭は、大成功だったと思います。学生会の一員として、高専祭を成功させることができ、本当によかったです。





1-1の  
はしまき



IE3の  
唐揚げ

## クラブ企画



茶道同好会の茶会



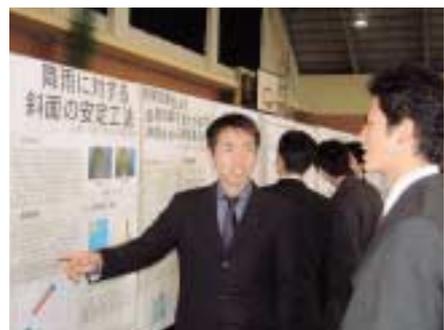
美術部の喫茶店

## 卒業研究ポスター展示

### 降雨に対する斜面の保護工法 土木建築工学科5年 大田 和正

環境により斜面保護を行うため、開放型フィルターに関する研究を行っています。フィルターは、雨がフィルター内を流れることにより、斜面の崩壊を防ぎます。開放型フィルターは植生や、他の斜面保護工法と併用できる点が大きな特徴です。植生を施すことで降雨に対して3~5倍程度よい結果がでています。

今後は、セメント系固化材を用いた場合の斜面崩壊の程度を調べ、降雨に強く、環境により斜面保護を研究していきます。

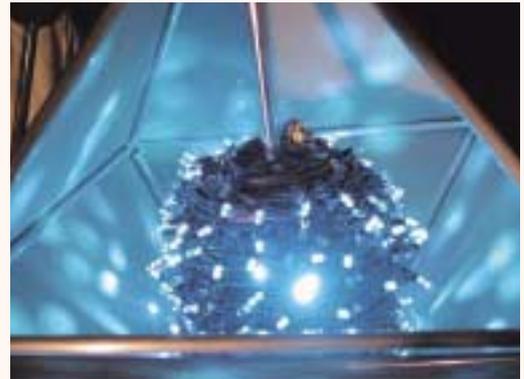


どちらも大田君ではありません

# 高専祭メイン製作

## The Essence of Laputa

メイン製作部長  
機械電気工学科4年 藤田 高史



「メイン企画の担当になってもらえませんか」という話をもらったのは8/27のことでした。①高専祭の2日間で終わってしまうのではなく、後に残るものを、そして②実質1ヶ月でつくること……。このうち②の条件は暗黙の了解でした。このとき、もはや時間が全くないことは明らかで、引き受ければどうなるか分かっていたつもりでしたが、気がつくと思製図室でひたすら図面と向き合う日々を送っていました。

今回製作に取り組んだものは、回転式オブジェで、その名を「The Essence of Laputa」といいます。土星の輪のようなリングの中に正12面体を、そしてその中に正8面体を配置し、これらを互いに逆方向に回転させる機構です。このため、同軸の回転軸を2つもち、2つのモーターで駆動しています。また、正8面体の中には、青色LEDを用いたランダムに点灯する発光体を備えています。



題名のEssenceとは“真髄・本質”という意味で、Laputaの中核で回転している飛行石をモチーフにしたものです。正12面体はよく化学の分子モデルなどで見かける形で、外側の輪につけられた球体はどことなく原子のまわりを回る電子

に見えなくもありません。最初のイメージはME4の片山君が伝えてくれて、あれこれといろいろなアイデアを混ぜるうち、独特の雰囲気を持つものができあがりました。

私は、授業のほかにも一年中、何かしらものづくりに携わっていますが、一つ“もの”をつくりあげるごとに、ものづくりの難しさ、学ぶことの多さを感じています。そして出来上がったときの大きな感動とともに、技術、ノウハウ、机上の空論ではない現場の知識などが私の中に培われ、磨かれていくのを感じます。振り返ってみると、実際に私にできたことはほんのわずかで、毎日がダメ出しの連続でした。ものがきちんと出来上がったのは、設計の段階でさまざまな知恵を授けてくださった先生方、機構についてのアドバイスや正確に部品を加工してくださった実習工場の先生方、発光体を作ってくれた同じくメイン企画担当のIE4木利君、有熊君、そして組み上げる際に手伝ってくれた友達、このオブジェに携わった全ての人の協力によるものです。心から感謝しています。

ありがとうございました。



# 高専祭学内ロボコン

School RoBoCoN of the neo generation



機械電気工学科

4年 片山 孟



今年の学内ロボコンは、“ROBOwarrior -The Darkness and Light” をテーマに、ロボットバトルを企画しました。内容を概ね説明しますと、約九平方メートルの八角形の競技場で、同時に、四機のロボットが試合できます。相手のロボットを活動不能、若しくは破壊、又は場外に押出せば勝ちとなります。

今回は前年の実行委員としての課題だった“The Renaissance of School RoBoCoN” (学内ロボコンの再活性化) から“School RoBoCoN of the Neo Generation” (新世代の学内ロボコン) へと発展させて、赤外線デジタル通信を使い無線化を実現させました。これにより、おそらく徳山高専史上初(?)の機械格闘戦が可能となりました。この赤外線通信ユニットはすべて自前で(既製品を購入したのではない)、ロジックやパターンなどはすべて本科IE4の有熊威君が設計してくれました。ユニットの製作には、同じくIE4の方が協力してくださって、予定よりかなり円滑に作業を進めることができました。開催するにあたって協力してくださった、事務官の皆さん、教官の方ありがとうございました。



さて、ロボットバトル自体は、USの高校生を中心に行われている“FIRST”や、EU諸国でもテレビ番組のひとつとして大々的に行われていますが、日本の「ロボット相撲」などとは違って過激に破壊しあうものです。今回はそのイメージで企画したのですが、何と無く結果的にロボット相撲のようになってしまったような気がします。要するに押し出しがファイナルイベント(必殺技?)になっているマシンが多かったってことですね…。そうだった一因として、製作時間が短かったことと通信ユニットの使い方が難しかったことがあると反省しています。来年度の実行委員になる人には今回の経験を生かして学内ロボコンがより良いものとなるよう改善していただきたいです。ところで、一年生から学内ロボコンに参加して、三年、四年と実行委員をしてきて一つ心配していることがあります。それは学内ロボコンの参加チームが以前に比べて少なくなっていることです。今回のような格闘戦をすると、チーム数が少ないと、次の試合までの時間が短く、十分な修理が出来ないまま試合に出ることになるなど、沢山の問題が発生します。来年度はぜひ参加しましょう! 高専と言えばロボコンでしょう! たぶん…。因みに次回のテーマは、4チーム同時対戦で、相手の陣地を占領して、勝敗を分ける陣取りのようなものを企画しています。もちろんロボット同士のバトルもアリです。言うまでもなく豪華商品も!

プログラミングコンテスト（略称プロコン）とは高等専門学校協会連合会主催の高専生を対象とした情報処理技術を競うコンテストである。今年の本選は「あいであ百万石」のテーマのもとに10月12、13日の両日に石川県金沢市で行われた。

プロコンには3つの部門がある。課題部門は与えられたテーマに沿った独創的なコンピュータソフトウェアの作品が審査される。今回のテーマは「スポーツとコンピュータ」である。自由部門は自由な発想で開発された独創的なコンピュータソフトウェアの作品が審査される。競技部門は与えられた問題に対して各自で開発したコンピュータソフトウェアを用いて解を求め、この時間や正確さで勝敗を決します。今回の問題は「以心伝心DNA」と題した4色のボールを用いて情報を伝達するものだった。

今回、徳山高専からは各部門1チームずつ本選に参加し、課題部門「Daily Diet」、自由部門「PCT-ペーパークラフトツクール-」はそれぞれ敢闘賞を受賞した。競技部門「Do-NA2（ドーナツ）」は2回戦進出という結果だった。

## 全国プログラミング コンテストに参加して

### 課題 部門

情報電子工学科4年 徳本 晃子  
「Daily Diet」チーム

私たちは、授業の一環として金沢で行われる全国プロコンへ応募することになった。予選を通過して金沢で行われる、本選に参加することになった。

金沢駅は、徳山駅とは比べものにならないくらいとてもきれいだった。近くにはいくつものビジネスホテルが立ち並び、東京とは違った都会的な雰囲気があった。

プロコンでは、プレゼンテーション、デモンス



トレーション、マニュアル審査があった。プレゼンは、準備の時間がなく、言いたい事もうまく伝えることができなくて残念だった。デモでは、一般の人から他校の人まで、いろいろな人に私たちの作品を紹介した。その中でも緊張したのは、審査員の方々に実際にソフトを動かしながらデモを行ったときだった。審査員の方の鋭い質問に、しどろもどろしながらも、なんとか終わらせることができた。なかなか思うように結果が出せず苦しいものになってしまった。

それでも、他校の人の作ったソフトを見たり、その説明を聞いたりしているのは、とても楽しかった。

プロコンに参加して、いろいろな人とふれあい、他校の人の作品に対する情熱を感じ、見習いたいと思った。そして、私たちもプロコンという場で、自分たちの半年の成果を敢闘賞という形で評価してもらうことができ、とても有意義なものになったと思う。

### 自由 部門

情報電子工学科2年 坪田 創  
「PCT-ペーパークラフトツクール-」チーム

今回のプログラミングコンテストでは、自由部門に参加しました。ペーパークラフトを作るソフトを制作すると決まったのは3月頃でした。夏休み前から先生が集めてくださった資料を使って本格的な作業を始めました。夏休みの間は土日以外毎日学校にきて作業を行いました。夏休みの間で立体の頂点を減らす部分がほぼ完成しましたが、実

行させてみると作業が終わるまでに時間がかかってしまい、改良をしなければなりません。このころから先輩が手伝ってくれたので、作業が早く進むようになりました。3Dの展開図を作成する部分は先生の指導のおかげで、無事完成しました。最後にすべてのものをひとつにするときに、これまで作ってきた物が最初と最後で違うソフトで作られていたので、なかなかうまくいかず完成するのに時間がかかりました。

そしてプログラミングコンテストの前日、ついたホテルでも夜遅くまで、エラーを少なくする改良を行いました。一日目は、午前中展示の準備をしたり、急遽足りなかった物を買出しに行ったりと、とても忙しかったのです。午後からは一般公開が始まり、問題なども起こらずに無事終わりました。二日目は、プレゼンテーションや審査員にソフトの説明を行いました。審査員の方にいろいろと厳しいことを言われてしまいました。

今回のプログラミングコンテストでは、敢闘賞を頂くことができました。何ももらえないだろうと思っていたので、とてもうれしかったです。

今、次回のプログラミングコンテストのアイデアを話し合っています。



## 競技部門

情報電子工学科4年 木利 友一  
「Do-NA2(ドーナツ)」チーム

プロコン競技部門本選。試合経過が映し出されるスクリーンを、私は観客席で見つめていました。その日、そこに1度だけ映し出された“徳山高専1位”の文字を、私はきっと忘れないと思います。今年の競技部門のテーマは、以心伝心DNA。

抜き取られることもある4色のボールでいかに多く文字を伝えるかを競う競技です。4人のメンバー全員で、何度も何度も試行錯誤を繰り返し、ようやくプロコンの出場権を獲得したのが7月の終わり。それから本番までの3ヶ月は、あつという間に過ぎていきました。

本選の日。私はエントリー人数の関係で、競技に参加する事は出来ません。この日の私の居場所は競技用ブースではなく、観客席。半年一緒に頑張ってきた仲間が懸命に競技している間、祈る事しか出来ないというのも、それはそれで辛いものがありました。そんな中、大画面に映し出された途中経過では、徳山高専の隣に“1位”の文字が。1回戦は、そのまま1位を譲ることなく突破するのですが、私はその間自分が何を思っていたか、思い出すことも出来ません。ただ嬉しさ、興奮で胸が一杯でした。

準決勝になると、相手も強豪揃い。多少無理して勝ちにいったのですが、それが裏目に出てしまい、残念ながら決勝へ進む事は出来ませんでした。

開放感、達成感、そして悔しさ、多くのものを残して、私たちのプログラミングコンテストは終わりました。確かに、一つのことを皆で作り上げるのは非常に難しい事です。しかし、その苦勞を乗り越えた先には、必ず得るものがあると思います。私は、競技を終えた後のみんなの誇らしげな顔を、絶対に忘れないでしょう。

来年のプロコンは東京で開催されます。後輩がああ舞台で、忘れられない思い出をつかんで来ることを期待しています。



# 高専ロボコン2002



機械電気工学科

3年 中田 透



私達は徳山高専を代表して、メカトロニク同好部を中心としたメンバーで、11月24日に東京の両国国技館で開催された、NHKの高専ロボコン全国大会に出場しました。

今年の競技は「プロジェクトBOX」というどこかで聞いたような名前の競技でした。競技フィールドに置かれた3つのスポットに箱を置いていくというルールで、ロボットがスタートする場所は競技フィールドより1m高い位置にあり、当然、まずマシンを競技フィールドに降ろさないとはいけませんでした。今年が一番の問題点はまさにそれで、例年では大体8月の中旬にはどのようなマシンにするかアイデアを出し終えて製作に入っていたのですが、今年は1m上から降りるという動作が足を引っ張り、8月に入ってもなかなかアイデアがまとまらず製作に移ることができませんでした。さらに、スタートゾーンと競技フィールドの間にはスポットに積む箱が階段状に積まれていて、それを傷つけると減点というペナルティまで用意されていたのもアイデアがまとまらない原因でした。そんな状態がしばらく続き、結局ある1つのアイデアに落ち着いて、製作に移ることになりました。とはいえ、それがほとんど夏休みの終わりごろだったというのを考えると作業は非常に遅れていました。

それから毎日夜遅くまでの作業が続き、中国大会の約10日前、ついに1m上のスタートゾーン



から競技フィールドに降りることに成功しました。完成したマシンは、最初にスタートゾーンと階段状に積まれた箱の間にエアシリンダーを伸ばし、それでマシンを支えながら箱を押し上げたスペースに降りて、前につけたアーム

# 中国大会技術賞 全国大会アイデア賞

で箱をはさんで積んでいくというものでした。はっきり言ってしまうと、まさか降りるとは思わなかったというのが本音でした。マシンを作りながら、結構無謀なことをしているなあと感じていたのですが、何とか降りることができたし、中国大会までそれほど時間が残っていたわけでもないのに、あとは練習して少しでもうまく降りられるように努力しました。

順調(?)に勝ち進んでいったのですが、準決勝で米子高専に負けてしまいました。それでも「高い技術力が云々」となぜか審査員には好評だったらしく、全国大会出場が決定しました。それからしばらく休憩をはさんだあと、また毎日夜遅くまでの作業が続き、全国大会へ向けて問題点の改善などを行いました。操縦練習もしっかりと行い、中国大会では競技フィールドに降りてから箱を1個積むのに1分近くかかっていたのを何とか半分近くまで短縮することができました。

しかし、全国大会ではまさか起こるとは思いもしなかったトラブルが発生して、途中からはさんだ箱を離すことができなくなり、1回戦敗退という非常に残念な結果に終わってしまいました。もしそのトラブルがなければきっと勝てた試合だったし、もし勝てば次は中国大会で敗退した米子高専との再戦が実現できていたので余計に残念ではありませんでした。私が1年生のときも同じく全国



1回戦負けでしたが、そのときは選手ではありませんでした。今回同じ1回戦負けを選手という別の立場で味わってみて、一昨年選手だった先輩方の気持ちがわかった気がします。



今回の1回戦負けという結果自体は確かに残念ですが、それでも部員全員で考え、作り上げたマシンで全国大会に出場できたこと、そして中国大会では技術賞、全国大会ではアイデア賞と2つの賞を受賞できたこと、一つのことを協力して成し遂げていくことの難しさと充実感を改めて知ったこと、昨年までの先輩が設計してそれを私たちが作るというのではなく自分で設計していくという作業を経験したこと、マシンを操縦したことなどは私にとって非常に大きな財産となりました。私達3年生にとっては、来年が最後の高専口ポコンになる可能性が高いので、今回学んだこと、経験したことを十分に活かして悔いの残らないようにしたいと思います。

最後に、忙しい中、国技館まで応援に来て下さった校長先生を始めとする先生方、マシンの製作の援助をして下さった実習工場やIE実験室の先生方、応援して下さいました皆さん、本当にありがとうございました。



# IE4創造演習発表会

## カラーボールで情報を送れ



9月18日と25日に創造演習の発表会とデモンストレーションを行いました。創造演習では、3、4名ごとにソフトウェア（6班）とハードウェア（2班）に分かれ、それぞれ作品を制作しました。

### 情報電子工学科4年 有熊 威

私たちの班では、PICを用いて、記憶型赤外線リモコンを製作しました。これは、家電製品用リモコンの信号を記憶し、複数の赤外線リモコンを一つに集約することを可能としたものです。

メンバーのほとんどが、このような開発は初めてで、何をしたらいいのか分からないような状態からのスタートでした。しかし、資料収集から設計、部品調達、製作へと作業が進むにつれて、徐々に各自が何をすべきかがつかめていったように思います。ハードウェアの動作不良などの問題が発生したときには、休日返上で学校に集まり、問題解決に向けて作業を行うこともありました。

努力のかいあって、記憶型赤外線リモコンは無事、完成しました。メンバー全員が、自分たちで決めたテーマを完成させるという目標のために、実現方法を検討し、協力して製作していくことができたように思います。

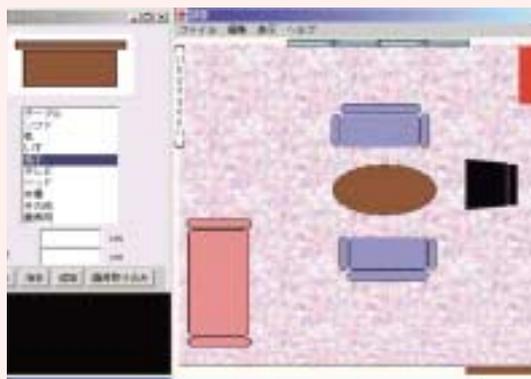


### 情報電子工学科4年 菅原 典子

私達のグループは、部屋の模様替えソフトを作成しました。部屋や家具のサイズを入力すると、部屋の模様替えがコンピューター上でシミュレーションできるというものです。

私達はJ A V A言語を使って開発することになりました。まず、自分達でJ A V A言語を勉強することから始めました。J A V A言語のことを全く知らなかったので、理解するのがとても大変でした。プログラムを作り始めたばかりの頃は、エラーが出てもどうやって直せばいいかなどさっぱり分からなかったり、また思うような動作が得られなかったりとても苦労しました。それでもみんなで頑張って、休みの日にも学校に出てきてこつこつと作っていきました。前期の終わりには、なんとか1つの作品に仕上げることができたので本当によかったです。出来た時には充実感でいっぱいでした。このソフトが少しでも誰かの役に立つことができればいいなと思っています。

この授業を通して、みんなで1つの作品を作ることの難しさ、楽しさなどいろいろ学びました。自分達の力で、努力して1つの作品を作っていくことは素晴らしいことだと感じました。



# 機械制御工学専攻 総合演習発表会開催

機械電気工学科助教授 兼重 明宏

9月12日(木)、総合演習発表会が校長をはじめ企業の方の出席のもと開催されました。本演習の目的はメカトロ製品の商品化を目標として、装置組込用ワンチップコンピュータPICを用いた製品を、企画から設計、製作まで一連の流れを体験しながら開発し、機械制御工学の総合的な専門知識や技術を身に付けるところにあります。

右表に示したように各人がそれぞれユニークな製品を開発しました。ほとんどの学生がPICについての知識がなく、初歩的な授業から始まりました。「形のないもの」から創造、設計、製作し、「形のあるもの」にすることは難しいことですが、自分の知識・技術を「形」にできる機会です。また、企業から講師を迎え、製品開発の実務を講義して頂き、学内において実務経験ができました。

発表会は、新聞やTVでも紹介され盛会に終わりました。今後、本科においてもPICの教育が始められていることから、より高度な実践的な製品の開発が期待できます。以下、一部学生の感想を挙げておきます。

○有田 覚 - 簡易マッサージ器「ミニモミくん」-

正直「PIC」が何なのかも分からず、最初は戸惑うばかりでした。PICを生かせる商品、またそれを作るための知識や技術力を考えてしまうと、商品の案を考える段階から前へ進めませんでした。私は、人が使って楽しめることを第一に考えて簡易マッサージ器を製作しました。本科生で取り組んだ創造製作をさらに発展させた授業のようであり、もの作りの楽しさを改めて感じました。

○桑野 領 - 3分タイマー「変わるんです」-

既存する商品とは違った機能をつけるという条件には、製品の企画の段階から非常に悩まされました。また、望んだ部品の在庫がな



発表会の風景  
相川君の「通行人カウンター」

く、部品の変更を余儀なくされることもありましたが。回路図やプログラムの作成には、これまで学んでいた授業の内容がとても役に立ち、今まで学んできたことは無駄ではなかったのだと安心しました。

○中山孝浩 - 電池残量測定器「余命診断」-

そもそも私は、機械科とは言いながらあまり器用ではないため、このようなハードの製作は苦手でした。設計から加工、更には半田付けまで。卒業研究もソフト担当だった私には途方もない話でした。だが製作していく内にいつの間にかその製作に夢中になり、皆より良くしようと必死になっていました。私達はまんまと先生の術中にはまったのかもしれない。エンジニアを育てるには最適な授業であったと、私は思います。

製作者と製品名

| 製作者  | 製品名            |
|------|----------------|
| 相川 暁 | 通行人カウンター       |
| 相本幸宏 | ステッピングモータ制御装置  |
| 有田 覚 | ミニモミくん         |
| 桑野 領 | 変わるんです(タイマー)   |
| 近藤秀樹 | ON-DO(温度計)     |
| 中山孝浩 | 余命診断(電池残量測定器)  |
| 福田敬介 | T & H(温度湿度計)   |
| 藤山宙洋 | Weather Master |
| 前田貴寛 | 温度セン三          |
| 山岡芳彰 | プチスロ           |



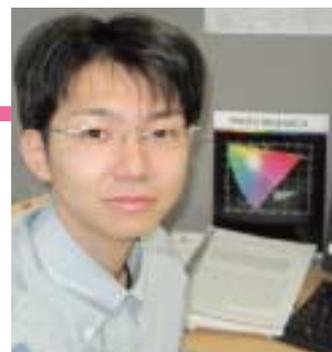
藤山君と気象情報のデータロガー  
「Weather Master」

# 卒業生だより

## ノーベル賞をめざす理化学研究所の研究者になって

情報電子工学科 第17期卒業

理化学研究所 脳科学総合研究センター 博士(工学)永田 憲範



私は、徳山高専の情報電子工学科を卒業後、豊橋技術科学大学へ編入し、修士課程、博士課程を経て、2002年4月に理化学研究所へ就職した社会人1年生です。私のような未熟者がこの紙面を割くことは誠に恐縮ですが、私のわずかな経験が皆さんにとって何かの参考になれば良いと思い、書かせて頂くことにしました。

### 高専から大学進学へのきっかけ

そもそも私が大学への進学を決めることになった大きなきっかけは、高専でのロボットコンテストや卒業研究でした。私は、ロボットコンテストや卒業研究を通して、未知のテーマや問題について調べ、解決する喜びを学びました。また、高専で学んできた知識や技術が実際に役立つことを知ったことも、大学へ進学し更に学識を深めたいと考える契機となりました。今思えば、私の大学進学は現在の職に就くことになった第一歩だったのかもしれない。

### 大学での研究と現在の仕事

大学への進学後、実際に研究に取り組み始めたのは学部4年の時、研究室に配属されてからでした。この頃、私は優れた情報システムとして、ヒトなどの生体を工学的に捉えるという考え方に魅了され、21世紀はヒトを中心とした技術を考えていく時代だと思っていました。そこで、私が配属を希望したのは、臼井支朗教授の生体・神経情報工学研究室<sup>1</sup>でした。この研究室で「ヒトが色を知覚する視覚システムの仕組み（色覚メカニズム）」について研究を進め、博士の学位を修めることができました。そして、日本で唯一自然科学（物理学、工学、化学、生物学、医科学など）に関する総合的な研究を行っている理化学研究所へ就職する機会に恵まれました。ここには研究内容によって様々な研究センターがあり、私は「脳

を研究する脳科学総合研究センター、ニューロインフォマティクス技術開発チームに勤めております。最近、IT技術を用いて脳科学における研究成果の収集・統合・解析を行い、脳の理解を更に深めることを目指した「ニューロインフォマティクス」という新しい研究分野が注目されています。現在、私は、このニューロインフォマティクスに関する技術を用い、大学で行っていた色覚メカニズムの研究を続けています。



### 高専生へのメッセージ

ここでは、これまでの私の経緯を書かせて頂きましたが、紙面の都合上、私が非常に面白いと思っている研究内容について詳しく説明できなかったのは大変心残りです。私自身、高専時代に現在のような職に就いている自分を想像すらできませんでした。しかし、高専で培われた未知のテーマに対する探求心や新たな技術に対する好奇心が、今の研究に対する姿勢の根幹を成しているように感じています。この記事を読んでいる高専生のあなた、高専を卒業するまでに何か一つ、自分を磨いていけるものを身につけてください。それは、専門的な技術ばかりではなく、精神的なもの（創造力、探求心など）でも良いと思います。きっと、あなたの将来を大きく切り開く武器になることでしょう。

<sup>1</sup>この研究室の詳細情報は、<http://www.bpel.ics.tut.ac.jp/>から得ることができますので、興味がある方は是非ご覧ください。

## 青年海外協力隊に参加

機械電気工学科 第14期卒業生  
ノダック株式会社 山崎 博憲



「ジャンガン ブアン！（訳：捨てるな）」イブラヒムさんは私に叫んだ。そう言って彼は、私が捨ててしまった錆びて曲がった釘をゴミ箱から拾い上げ、金槌でまっすぐに打ち直した。「ピサパカイ ラギ（また使える）」と笑いながら、それをロッカーに片付けた。これは、私が青年海外協力隊（ボランティア）としてインドネシアのパサレボ職業訓練校工作機械科のインストラクターとして活動し始めたころの出来事であった。ここでは、インドネシアをはじめ多くの開発途上国が共通して抱える「資金不足」という問題により機材のメンテナンスまで費用が回せていない現実があった。私は彼等と共に故障して放置された機材の修理をした。その日は不足がちな材料事情の中で、釘が機材の部品の代用として使えないかと試していた。ところが、釘が曲がってしまったので何気なく捨ててしまったのだ。私は、釘を叩き直している彼の姿を見て、自分が日本とは感覚の異なる国にいることを痛感したと同時に、使い捨てに慣れきった日本で育った自分を恥ずかしく思った。

インドネシアでの生活は、彼らのしたたかさに感心する毎日であった。



職場の人達と

日本では捨ててしまうような磨耗したフライス（平面切削機）のチップ（着脱式刃物）。それは捨

てられることなく鋼材に口付けされ旋盤（円筒切削機）のバイト（刃）として再利用された。磨耗した弓鋸も、研磨して木片に差し込まれ、電気科の実習で電線の被覆を剥がすナイフに生まれ変わった。一般家庭の生活費も決して楽とはいえない。先に働きはじめた年上の子供は、そのわずかな給料を家族の生活費や年下の兄弟の学費に当てるのが当然であった。更に日中の勤務の後、夜学に通う者も珍しくなかった。



ジャカルタの市街地

そんな国情を「低賃金の国だから仕方ない」「戦後の日本もそうだった」と言ってしまうばそれまでであるが、私はこの環境で生み出されるハングリ精神とそれが生み出す創造性が国力となりつつあることを感ぜずにはいられなかった。その一方で、帰国して見た日本が「望まなくても与えられることが当たり前のような飽和した国」に思えた。

青年海外協力隊として参加した2年半、開発途上国の技術協力で指導に行くつもりが、逆に教えられた毎日であった。

若い時期に2、3年、ボランティアとして開発途上国へ行くことは、日本最先端分野でのキャリアという面でブランクとなるかもしれないが、人生にとってマイナスにはならないと思う。国際協力に興味のある人、将来、青年海外協力隊に参加してみてもどうだろうか。

## 機械電気工学科

# 就職進学状況

5年担任  
機械電気工学科  
教授

門脇 重道



## 目標を持って生活 しておくことが重要

平成14年度の機械電気工学科5年生は37名で、就職希望者23名、進学希望者14名です。

まず就職状況からですが、求人社数は250社程度で、昨年度とほぼ同じ程度です。就職試験の傾向ですが試験時期がさらに早まっています。4月中に試験があった企業は14社になります。それから試験の長期化ということももう一つの特徴かと思えます。最初の試験から内定が出るまでに1ヶ月近くかかった企業が7社あり2ヶ月に近いものが1社ありました。さらに自由応募で受験した企業は2社あります。それからこれは今年の学年の特徴かとも思いますが、地元就職希望者が多く、配属先は現時点では不明ですが、広島・山口に工場のある企業を地元とすると、地元就職が14人という数字となります。

これらの傾向について少し説明をしておきます。試験の早期化という傾向は、まだ続くと予想されます。インターネットで就職の情報は見ることが

できますから、自分で調べてもらうのがよいでしょうが、企業はインターネット上にホームページを開設していて、そこに必ず採用関係の情報も掲載されています。そこを覗くと、現在(2002年11月)で既に15年度の採用情報が掲載されています。4月に就職試験ということはそれまでに受験対策を完了しておく必要があるわけですから、4年生の現時点では準備体勢が始まっている必要があるわけです。ただし4月から試験が始まるというのは3月になる可能性もあると考えておいた方がよいと思います。

それと試験の長期化ということですが、これは企業の買い手市場になっているということの現われです。これらの企業はほぼ3次試験までであるということです。学校推薦での試験の長期化ということは、途中で不合格にされると大変不利な状況になるわけで、学校関係としてはもう少し短期に結論を出して欲しいところです。

進学に関しては、受験先を早く決めて、受験先の試験の傾向を早くつかみ試験の準備を早くから進めることと、もう一つは受験先の学科選択において難易度に差があるので、そこをよく見極めることが大事かと思えます。それと推薦文を書く立場から言っても、学校時代に毎年何かをやり遂げるように目標を持って生活しておくことが重要ということです。推薦文に何を書いたらよいかわからない人は、やはり学校生活の充実度が低いということになります。

進学の場合のもう一つの注意は、大学進学がイコール就職が有利ということではないということです。大学では修士の就職が優先されますので、学士卒は大変不利になります。従って大学進学をするのであれば、修士課程までは進むつもりでなければ就職は高専よりも不利になりますし、修士に進んだ場合もよい成績でないと、望むところにはなかなか入れないという状況であることは認識しておく必要があります。

**就職：**日本ゼオン(株)、(株)トクヤマ、三菱電機ビルテクノサービス(株)、西日本旅客鉄道(株)、テルモ(株)、マツダ(株)、トステム(株)、(株)カンセツ、西川化成(株)、協和発酵工業(株)、東洋自動機(株)、日立笠戸エンジニアリング(株)、ヤマハオートセンター(株)(レッドパロングループ)、東洋鋼鈑(株)、三菱重工業(株)、出光興産(株)、(株)マツダ イーアンドティー、昭和パックス(株)、東芝メディカル(株)、ソニーイーエムシーエス(株)幸田テック、ソニーイーエムシーエス(株)木更津テック

**進学：**豊橋技術科学大学に4名、岡山大学、九州工業大学、島根大学、徳山高専専攻科8名で1名は就職先からの派遣となります。

# 情報電子工学科 就職進学状況

5年担任  
情報電子工学科  
教授

江口 賢和



## 資格取得にチャレンジ する意欲を評価！

平成14年度の情報電子工学科の卒業予定者は38名です。12月現在で進路が決まっている者の内訳は、就職21名（内、女性7名）、大学編入学9名（内、女性3名、留学生1名）、専攻科7名（内、女性1名）となっています。

今年度求人してきた会社数は約250社で昨年度とほぼ同数ですが、一社当たりの採用人数は、訪問した会社や求人に来られた会社の人事担当者の話によれば、やはりこの不景気な社会情勢を反映して昨年度の8割程度に減っているとのことでした。従って、本学科の就職戦線でも不合格となった延べ人数は24名に上り、厳しい状況でした。就職を地域別にみれば、関東地区9名、中部地区1名、関西地区5名、中国地区4名、九州地区2名となっており、やはり関東、関西が多数を占めています。

就職協定もなくなり、就職活動もかなり早まっていることから、今年度の就職希望者は4年次か

ら活動し始め、教室に前年度の求人票を置き、2月に進路調査をするので、希望の会社を早めに見つけておくように指示し、5年になったらすぐ動き出せるようにしました。最初に、試験に出かけたのは自由応募で2月下旬、学校推薦で4月中旬で、最初の合格者が出たのは4月23日でした。ピーク時は5月の連休明けで、7月でほぼ終了しました。

最近は、かなりの会社がホームページを開いていますので、会社の業務内容等を詳しく知ることができます。また、ホームページで採用情報等も公開していますので、求人票が来ていなくても自由応募で受験できる会社も増えています。今年度は1名が自分でインターネットから探してきた会社に自由応募で挑戦し、見事合格しました。自由応募は学校推薦に比べて試験回数（3回以上）が多くなり、大変ですが、企業はこのような自主性や積極性のある学生を望んでいるようです。

就職には、情報処理技術者等の資格を持っていると有利です。企業は、資格を持っていることでこの人がある程度の専門技術を修得していると判断する以上に、資格を取得するために、授業で学んだ基礎知識を基に専門分野に興味をもち、自分で学習し、自身の能力を高めたという前向きな姿勢、自主性が評価されるようです。そのためには資格は早めに、しかも多くの資格を取得する方が有利です。

さて、今年度の進学者は、本学科としては例年より多くなりました。大学受験には推薦と学力がありますが、推薦で7名、学力で11名（2名重複）が合格しました。推薦の場合は、本校での成績がものを言いますが、学力の場合は、早めに自分に合った大学を見つけ、受験勉強を早めに始めることが肝心です。特に、数学、英語、物理などの一般科目や専門の基礎をしっかりと勉強しておくことが必要です。

**就職：**アプロ、アルファシステムズ、エス・イー・シー・ハイテック、エヌ・ティ・ティ・コムウェア、エヌ・ティ・ティファシリティーズ、NHKアイテック、関西電力、キャノンシステムアンドサポート、KMEソフト、コンピュータロニクス、三洋電機、第一コンピュータリソース、東芝プロセスソフトウェア、徳山東芝セラミックス、中国通信ネットワーク、中国電力、フジオーネ・テクノ・ソリューションズ、富士通中国システムズ、松下システムテクノ

**進学：**岡山大学、京都工芸繊維大学、九州工業大学、北九州市立大学、佐賀大学、豊橋技術科学大学（4）、広島市立大学、山口大学、徳山高専専攻科（7）

# 土木建築工学科 就職進学状況

5年担任  
土木建築工学科  
教授

工藤 洋三



## 基礎的な学力を 身につけて

今年度の土木建築工学科5年生は44名、このうち8名が大学編入、14名が徳山高専専攻科で、進学がクラスの半分です。現在の4年生の進路希望などの調査でも同様な傾向が出ており、高学歴化に対応したこのような傾向は今後も続くのかもしれない。

土木建築工学科の学生の就職先の特徴として公務員になる人が多いということがあげられます。公務員を希望する学生にとって今年は特別に厳しい年になりました。まず国家公務員試験ですが、近年、本来高専・短大卒業生の枠であるはずの種試験に大勢の大学生が受験し結果的に多くの大学生が採用されています。さらに種試験の採用枠も減っています。また近隣の市町村の採用も減っています。これにはさまざまな理由が考えられますが、最近の市町村の合併論議の中で、合併によって生じる職員の削減を先取りして新規採用を控える自治体もあります。

最近の公務員試験のもう一つの特徴は、一次試験の合格が最終的な合格を意味するものでないということでしょう。これは公務員としての資質をみるための面接試験の比重が増大しているためです。これから公務員を受験しようとする学生は、早めに目標を定めて公務員試験に取り組む必要があるでしょう。

民間就職を希望する学生は10名余でした。長びく不況と公共事業の見直しの中で新規採用を手控える企業が増えています。従来指定校制度はすっかり影を潜め、狭くなった採用枠に大勢の学生が志望するという傾向にあります。一方で不況下でもたくましく生き残り業績を拡大している会社からの求人もあります。会社名などにこだわらず、これから大いに成長の可能性のある企業を見つける目も必要です。いずれにしても、どのような厳しい状況下であっても求人が途絶えることはないということも事実です。しっかり自分の進路をみつめ、基礎的な学力を身につけて就職試験に臨む必要があると思います。

土木建築工学科では今年度から会社からの求人情報や自治体職員の募集要項、編入学試験の実施状況などをネット上で紹介しています。いくつかの制約からアクセスできるのは学内からだけですが、企業からの求人状況であれば、会社名や業種はもちろん、求人票を直接見るができるほか、ホームページを開設している会社であれば、土木建築工学科の就職関連のホームページから会社のサイトにリンクしていますので、直接会社からの情報を得ることができます。進路決定が差し迫った学生だけでなく、低学年の進路についての意識の向上のためにも役立つと思っています。

**民間企業**：山崎建設、セキスイハイム山口、J R西日本、山和建設、日特建設、柏原塗研工業(株)、(株)プルーフ・アーキテクツ

**公務員**：国土交通省、広島市役所(2名)、名古屋市役所、山口県、山口県教育委員会(実験助手)

**進学**：徳山高専専攻科、北九州市立大学、広島大学、豊橋技術科学大学、熊本大学、琉球大学、立命館大学

# 就職試験体験記

## 二兎追うものは一兎を得た

僕はSONYを受験しようと思い調べてみると、ここ最近MEにSONYの求人が来ていなかったのので、自分でSONY系列の会社を探して自由応募しようと思ったが、担任の先生に求人が来ているというのを聞いて、もう一つのSONY系列の会社も学校推薦で受けることにした。このときは、SONY以外の会社は眼中に無かったので、落ちたら大学ないし専攻科にでも行こうと心に決めた。筆記試験も面接もがんばって鍛えたため、本番では両方とも大して緊張しなかったのので、本来の力を十分発揮できた。結局、学校推薦の方が受かった。自由応募の方は2次試験に合格して、3次試験を受験しようとしていたが、自由応募よりも学校推薦の方が優先的になるため、断らなくてはいけなかった。自分で断り電話をするときは非常に気まずかった。最近によく「就職難」といわれているが、僕自身の体験としては、就職試験への準備が出来ていれば、就職活動は楽なのだ。



機械電気工学科5年  
岩崎 亨

## 私の就職体験

私にとって就職活動はなかなか厳しいものでした。全部で3つの会社を受けました。どれも受けた後、帰りの新幹線の中では「絶対落ちた。」と思ってかなり落ち込んでいました。予想通り二つの会社には落ちました。落ちた原因は、一つ目の会社では、筆記試験の勉強不足です。二つ目の会社では、一つ目の会社で落ちてしまったというショックをひきずったまま、あせって選んでしまったことです。二つも落ちてしまうと、「自分を採用してくれる会社なんてあるのかな？」と自信が無くなってしまいました。でもそのときに、友達や先生方が励ましてくださったおかげで、なんとか「次こそ受かろう！」という気持ちに切り換えることができました。そして、三つ目の会社ですが、面接官の人に「意地っ張りですね。」と自分の悪いところを指摘されたにも関わらず、ついに受かりました。はっきり言って何で受かったのかは分かりません。ですから、下級生の皆さんには受かるコツというものはありませんが、もし落ちたとしてもあせらず、くじけずに頑張ってください。



情報電子工学科5年  
河谷 里美

## 公務員になるまで・・・

私は防衛庁、国家、地方、全部で五つの試験を受けましたが勉強不足のためそのうち四つの試験に落ち、最後に県外の市役所に受かったのですが私にとってはほぼ全滅に近い状態でした。なぜなら、面接が一番肝心の志望動機や目的が私にはなく、そこへ行ったことすら全く無知な状態だったからです。最初の面接の練習では何も答えられずぼろぼろの状態でした。それからは、その市をよく知るために暇さえあればホームページをチェックし、今その市が取り組んでいること、抱えている問題、課題について、とにかく動機をはっきりさせるために何度も何度も勉強しました。そしてその甲斐もあり運良く合格することができました。忙しい中面接の練習に協力してくださった先生方、本当にありがとうございます。私はあまり勉強していなかったのので、これから公務員になろうと思っている皆さんは二次面接で希望するところを第3希望まで言えるように勉強頑張ってください。私は、もう後がなかったのでも「ここを落ちたらどうしますか？」と聞かれました。



土木建築工学科5年  
松浦 智子



## 機械電気工学科5年 竹村 大輔

「高専だよりに、5年間を振り返ってというテーマで原稿を書いてくれないか？」そう言われて、僕が徳山高専に入学してもう5年が経ち、そしてあとわずかです卒業していくということを改めて実感した。5年間の高専生活は、とても一言で語り尽くせないような沢山の貴重な思い出に満ちている。楽しかったこと、辛かったこと、色々な思い出が、まるでついこの間のことのように思い出される。

実は、僕は1年生の時、「徳山高専に入学して」というテーマで高専だよりの原稿を書いている。その中で、1年生の僕は、「充実した設備の整っている徳山高専で、色々なことに挑戦してみたい」と書いている。とても小さな中学校から、とても大きくて、多くの設備が整っている徳山高専に入学して、(ここでなら、やる気があればきっと何でもできる)と期待に胸を躍らせていた入学当初が懐かしい。

古い高専だよりを読み返しながら振り返ってみると、僕の高専生活は、まさに挑戦の繰り返しだったような気がする。沢山の資格の取得に挑戦したり、創造演習で調べてきたことを論文にまとめたりもした。4年次に噴水作りに挑戦したことは、特に強く心に残っている。約4ヶ月をかけて製作に取り組み、とても苦労して完成させた噴水が、最初に水を噴き上げた時は、本当に感動した。高専生活で1番の挑戦だったと思う。

最後に、このように色々なことに挑戦したり、貴重な経験ができたのも、先生方や友達のおかげだと思う。沢山のチャンスを与えて下さった先生方、僕の挑戦にいつも手を貸してくれた友達みんなには、心から感謝している。

# 5年間の高専生活を振り返って



## 情報電子工学科5年 木村 学

5年間を振り返ってみると、後ろ向きな気持ちになってしまった。入学したての1年生のころのことを振り返ってみると、「高専はこわいところ」という印象が残っている。友達になったばかりの寮生は、先輩とすれ違うたびに力の限り声を張って挨拶をしていたし、新入生歓迎クラスマッチでは、先輩からバットを投げられるという熱い“歓迎”を受けた。熱いといえば、教室も“あつ”かった。私は1年のときのクラスは1組で、当時の1-1の教室は、管理棟4階の山側にあった。その教室はこの学校で最も風通りの悪い教室で、夏、“じめじめ感”と、“あつさ”と熱弁を振るう先生の“汗だくの顔”で、まるで生き地獄のような状態だった。そのため、授業を受けながら、めまいを起こしたことが多々あった。それ以外にも死にかけたことが何度もあった。夜、学校帰りに野犬軍団(4頭ぐらい、色:茶系)に襲われそうになったこと。入学当初に買った自転車(今でも使ってます)があまりにボロで、高専坂を下りながらサドルが空中分解してしまったこと。女子大生の運転するインプレッサを避けようとして田んぼにダイブしたこと。などなど、今、生きているのが不思議な5年間でした。

その他の学校生活では、クラブでプログラミングコンテストに参加したり、会長を務めたりしましたが、数々のドジを踏んでしまい、クラブ関係者に迷惑をかけてしまいました。(すいません)とはいえ、無事に5年まで上がりここまでこれたことを「ありがたく」思います。教えて下さった先生方には感謝するとともに、公式ページの写真を勝手に“らくがお”したり、癖をモノマネして楽しんだことをこの場をもって謝ります。卒業後は、そんなことをしないヒトに私は成りタイ。

# 研修旅行の 思い出



土木建築工学科5年  
松本 宏幸

4年生で行くはずの研修旅行は運悪くテロがあつて延期されました。およそ1年たった先日、やっと研修旅行の日程が決まり、ハワイ諸島のハワイ島マウナケア山山頂付近にある国立天文台の「すばる」望遠鏡を見に行つて来ました。

今回の旅行では「旅行の成功の鍵は計画にある」という担任の工藤先生の勝手な思いこみによって、色々準備をしました。山頂での記念撮影のための横断幕（写真を見てください）や「研修旅行のしおり」の作成、それにすばる望遠鏡の建設記録を収めた約100分のDVDを見ることでした。卒研の中間発表を目前に控えており、ポスターにパワポつくらなきゃと思いつつ現実逃避。工藤先生も「中間発表？そんな関係ないよ」みたいな感じで旅行の備品づくりの方をはりきっていました。多分。

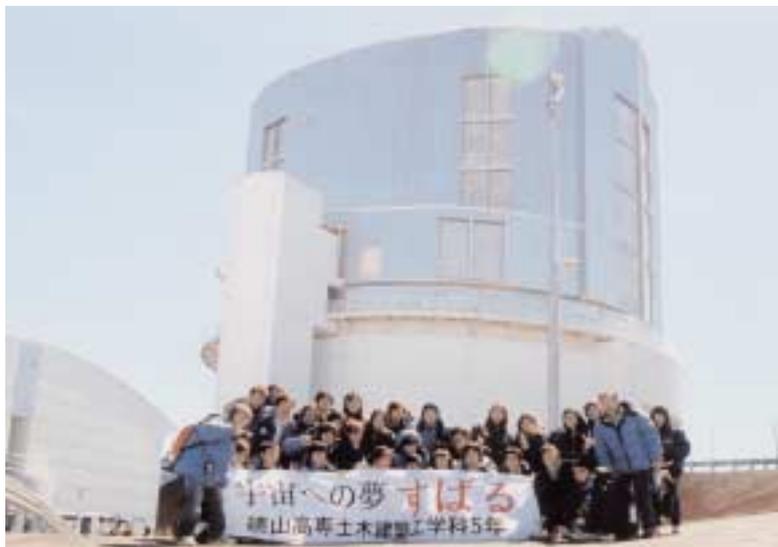
今回つくった横断幕は1回しか使えません。もし「すばる」に行くことになつても横断幕に「5年」と書いてあるからです。「すばる」まで行って写真を撮るその一瞬のためにつくったものです。先生によると一回しか使わないから価値があるらしいです。その横断幕ですが、写真を撮るときにあつてよかったと思えました。なんとなく一体感がでたような気がします。

「しおり」づくりでは文中に挿入するハワイ諸島の配置図や概念図づくりを手伝いました。自分が

つくった地図がどれだけ活用されたかわかりませんが、「しおり」の中で、食事が組み込まれているのか、それとも自分でなんとかしなければならないのかが一目でわかるのは良かったです。

食事といえば、行く前に藤原先生がメシがすごいまずいと言われていましたが、あんまり気にしていませんでした。でも、カップラーメンにスープが入っていないなくても気付かずに完食するほど自他共に認める味覚音痴（自分では味の許容範囲が広いだけと言い張ってます）な僕ですが、ちょっと耐えられませんでした。ちなみに食べたのはハワイの料理ではなくて、タイ料理でした（タイの方ごめんなさい）。みんなに話すと「なぜ、ハワイに行ってタイ料理？」と言われます。でもまあそれは置いて、その日の一番負けは一緒に食べに行った神田君です。ジャンボシュリンプ（ばかでかいエビ）というメニューを注文したのに出てきたエビはとっても小さかったのです。帰りに桑嶋先生が一言「タイ人に騙されたのかハワイの人に騙されたのか微妙だった」。たしかに。ちなみに他の料理はほぼ普通に食べることができました。森君は量が多かったため、半ギブアップ状態でした。

旅行の時期が悪く、全員が参加できなかったのが心残りですが、とにかく楽しかったです。



# CA4研修旅行

# ハワイからALOHA~

研修旅行委員

竹林 泰佑／野崎 潤

高原 令／豊島 慶子／山本 佳奈

前期の期末試験を終え、すぐに私達は福岡空港行きのバスに乗り込みました。はじめはお菓子を食べたりはしゃいだりしていたみんなもテストの疲れが出てきたのか空港まではぐっすりと寝てしまいました。スーツケースを片手に空港の前に立つと、もうワクワクドキドキでした。飛行機は滑走路を加速しながら徐々に上昇していき、気がつくと雲の上!!飛行機の中ではきれいなスチュワートスさんを見つけて写真をとったり、音楽を聴いたりハワイまでの8時間は思い思いのときを過ごしていました。何時間かたって先生が外を見つてみるというので窓の外を見てみると、いつもは夜空に浮かんでいる北斗七星が真横に浮かんでいました!!これにはみんな感激でした。早朝窓の外にハワイ諸島が見え、その中のひとつ、オアフ島のホノルル空港に着陸しました。

ハワイ初日、ハワイ島ではコーヒー園やキラウエア火山に行きました。コーヒー園のコーヒーはさすが本場!!とてもしぶくおいしかったです。においが全然違ってこれは買いたと思い即座に買いました。そしてキラウエア火山の火山口はもっとすごい!!ただただ呆然としていたのを今でも覚えています。写真を見てもわからないかもしれないけど、とにかくスケールが違います。距離も高さも広さもアメリカサイズなのです。今まで生きてきてこれほどすごいものは見たことないので、私は「アメリカすげええ〜っ!!!」と1日中思っていました。



ハワイ2日目、私達は富士山よりも高いところにある天体望遠鏡“すばる”を見に行きました。ここは地上の60%しか空気がなかったため、ふだんうるさい男子でさえ顔色が青ざめ、倒れこむ人も数人出ました。それにしてもあまりにもでかい望遠鏡!そのスケールと空気の薄さに、みんなボカ〜と口を開けて意識が半分とんでいました。一般の人はめったに見学できないということで、一生に一度の貴重な体験ができました。





いよいよフリータイム1日目。私は友達とハナウマ湾に行きました。ホテルまでバンで迎えにきてもらい、途中で乗り換えたのはなんとリムジン!!ちょっとリッチな気分を味わいました。ハナウマ湾に着いて海のあまりの美しさにみんな感激!すぐに水着に着替えて泳ぎに行きました。シュノーケルをかぶって海に潜ってみると魚たちがいっぱい自分達に近づいてきてくれて、ハナウマ湾にしかない光景にさらに感激しました。



夜はショッピングセンターや露店にでかけました。徳山なんかとは訳が違って夜の9時や10時でもたくさんの方がショッピングを楽しんでいます。他の人たちは、ワイキキ1番のアラモアナショッピングセンターで買い物を楽しんだり、自転車をレンタルしてサイクリングを楽しんだりしていました。

フリータイム2日目。夕方まではそれぞれ買い物をしたりして、夜は宿泊先のホテルからバスで1時間ほど移動し、ディナーショーに参加しまし

た。そのショーは現地の人たちにとっても人気があるものらしく、日本人は私達しかいませんでした。ショーが始まる前に料理が運ばれてきたのですが、やっぱりハワイ。量が多く味も濃かったので私はほとんど食べられませんでした。ショーが始まり腰みのをつけた男女がたくさんできてフラダンスを踊りはじめ、私は見たこともない光景に思わず口をあけて見入ってしまいました。途中MCのお姉さんが出てきてジョーク交じりのトークをしていたのですが、英語のわからない私達は現地の笑いについていけず周りのみんなで顔を見合わせたものです。お客をステージに上げて簡単なフラダンスを教えてくれるというコーナーでは私達も参加しました。やっぱり英語がわからず戸惑いましたが、みようみまねで楽しくできました。日本人観光客が多く日本語でも困らないはずのハワイで初めて言葉が通じず大変でしたが、ハワイの人々のパワーとオープンなところをたくさん見ることができ、とても貴重な体験ができてよかったと思います。

ハワイから帰ってきてもうずいぶん経ちますが、過ごしたハワイでの6日間は、最高の思い出になりました。

ハワイ  
最高!!!!  
どうえ~~~~



# 資格取得状況

## 英語検定資格取得のすすめと最近の取得状況

### 英語資格で キャリアアップ



一般科目（英語科）

助教授 **長戸 喜隆**

英語科では、これまでも、実用英検、工業英検の取得状況やTOEICの受験状況を報告してきました。学生の皆さんの奮闘ぶりを間近で見ている私たちにとって、その頑張りの成果を報告することは、喜びでもあり、誇りでもあります。

どの学年で何を受験したらよいかは、次表を見てください。3つの英語資格は、認定しようとする英語力の観点が大きく異なるので、どれかひとつに絞ることはできません。学年と自分の英語力に応じて受験し、オールラウンドな英語力をつけることを目指してください。

| 学年 | 取得すべき資格                                  |
|----|--|
| 1  | 工業英検 4 級、実用英検準 2 級                       |
| 2  | 工業英検 3 級、工業英検 4 級、実用英検準 2 級のうち未取得のもの     |
| 3  | 工業英検 3 級、実用英検 2 級、準 2 級                  |
| 4  | TOEIC 470 点以上、工業英検 3 級、実用英検 2 級のうち未取得のもの |
| 5  | TOEIC 470 点以上、工業英検 3 級、実用英検 2 級のうち未取得のもの |

専攻科生のみなさんは、TOEIC400点以上が専攻科修了要件となっていますので、4月と9月に本校で行われるIPテストで慣れ、本会場での受験にも果敢に挑戦してもらいたと思います。IPテストは本科生のみなさんも受験できます。実際、

4月に5名、9月には22名受験しました。このIPテストは、本試験と同等の問題を、各学校、事業所単位で実施し、英語力判定の目安とするものです。厳密な意味では、公認スコアではないとされていますが、それに準ずる信頼を社会から寄せられています。

TOEICと言えば、Listening分野の英文のスピードと量に気をとられがちです。しかし、Reading分野も同配点であることに留意する必要があります。本校IP受験者の場合、多くはListening分野の得点に比べて、Reading分野の得点が、あまりに少ないのです。中にはReading分野の得点が、Listening分野の半分しかない人さえいます。読解力（単語・熟語の知識が大いに関係）や構文力、文法力の増強が、TOEIC対策に於いてもきわめて重要と言えるのではないのでしょうか。

閑話休題。結果の出ている最近2回の資格取得状況をご覧ください。(TOEIC IPは学生分のみ。) 今回の報告で特筆すべきは、情報電子工学科4年の木利友一君の健闘です。実用英検2級、本校最年少での工業英検2級取得、TOEIC IPで690点獲得のトリプル・クラウンに輝きました。

実用英検・工業英検合格状況（最近2回）

| 実用英検          |     | 合格者数 | 受験者数 | 合格率  |
|---------------|-----|------|------|------|
| 2001年度<br>第3回 | 2級  | 4名   | 28名  | 14%  |
|               | 準2級 | 17名  | 39名  | 44%  |
| 2002年度<br>第1回 | 2級  | 4名   | 17名  | 24%  |
|               | 準2級 | 13名  | 20名  | 65%  |
| 工業英検          |     | 合格者数 | 受験者数 | 合格率  |
| 2001年<br>11月  | 2級  | 1名   | 2名   | 50%  |
|               | 3級  | 11名  | 28名  | 39%  |
|               | 4級  | 47名  | 56名  | 84%  |
| 2002年<br>5月   | 2級  | 1名   | 1名   | 100% |
|               | 3級  | 6名   | 23名  | 26%  |
|               | 4級  | 65名  | 109名 | 60%  |

TOEIC 470点以上人数（最近2回のIP TEST結果）

| 実施日       | 470点以上 | 受験者数 | 割合  |
|-----------|--------|------|-----|
| 2002/4/17 | 5名     | 43名  | 12% |
| 2002/9/4  | 8名     | 48名  | 17% |

# 君も挑戦しよう——IE学生の資格取得状況

情報電子工学科 助教授 山田 健仁

外部資格の取得は、就職採用の際の客観的学力指標として重視されています。また、最近ではJABEE（日本技術者教育認定）への学校を挙げての取組みの中から、外部資格を学力評価の客観的指標の一つとして取り入れるようになってきています。

情報電子工学科では、「情報処理技術者試験」、「電気通信の工事担任者試験」の受験・資格取得推進を行っています。資格を取得するためには、受験勉強だけではなく、講義・実験を通じた基礎技術力の充実が必要と考えています。いずれにせよ、学生諸君が資格の重要性を十分に認識して、低学年より専門科目を着実に学び、資格取得に挑戦することが必要です。表に示すのは、今年度の資格取得者の状況です。資格を取得している学生としていない学生の基本的な差は、本気でそれに挑戦するか、しないかの差ではないでしょうか。以下に卒業生からのメールを紹介します。

「私は、社会人になって、自分の力の無さを痛感しました。そこで猛勉強を開始して、高専時代一度も受験しなかった情報処理試験を受けました。先日、その結果が出たのですが、余裕で受かってしまいました。今思うと、なぜ学生時代受けなかったのか？と思います。社会人になってからは勉強する時間が限られてくるので、学生の間でできるだけ多くの資格を取得する事が望ましいと思います。(第24期卒業生：木下陽平)」



| 情報処理技術者資格取得者（IE本科） |       |        |    |       |
|--------------------|-------|--------|----|-------|
| 5年                 | 氏名    | 初級シスアド | 基本 | ソフト開発 |
|                    | 金子 秀史 |        |    |       |
|                    | 岸 秀太  |        |    |       |
|                    | 木村 学  |        |    |       |
|                    | 鈴川 慶一 |        |    |       |
|                    | 武安 美和 |        |    |       |
|                    | 田村 直之 |        |    |       |
|                    | 藤村 賢治 |        |    |       |
|                    | 松田 敏之 |        |    |       |
|                    | 吉岡 康一 |        |    |       |
|                    | 清水久美子 |        |    |       |
|                    | 山田 祥功 |        |    |       |
|                    | 中村 秀一 |        |    |       |
|                    | 望月 浩平 |        |    |       |
|                    | 三代 真美 |        |    |       |
|                    | 加藤 悌孝 |        |    |       |
| 4年                 | 氏名    | 初級シスアド | 基本 | ソフト開発 |
|                    | 有熊 威  |        |    |       |
|                    | 片山 太二 |        |    |       |
|                    | 兼弘 直美 |        |    |       |
|                    | 川上 徹  |        |    |       |
|                    | 木利 友一 |        |    |       |
|                    | 小林 真之 |        |    |       |
|                    | 田中 利康 |        |    |       |
|                    | 浅田 将人 |        |    |       |
|                    | 菅原 典子 |        |    |       |
|                    | 常見 正彦 |        |    |       |
|                    | 助藤 健一 |        |    |       |
|                    | 徳本 晃子 |        |    |       |
|                    | 藤澤 亨  |        |    |       |
|                    | 松村 友博 |        |    |       |
|                    | 吉武 龍哉 |        |    |       |
| 3年                 | 氏名    | 初級シスアド | 基本 | ソフト開発 |
|                    | 栗屋 友平 |        |    |       |
|                    | 重田 知夏 |        |    |       |
|                    | 中務 和視 |        |    |       |
|                    | 美濃屋悠太 |        |    |       |
|                    | 山田 泰広 |        |    |       |
|                    | 芳川 健  |        |    |       |
| 2年                 | 氏名    | 初級シスアド | 基本 | ソフト開発 |
|                    | 温品 恵理 |        |    |       |
|                    | 吉崎 航  |        |    |       |

# 徳山高専 第1回 発明コンテスト



11月16日(土)、学校見学会の企画として、「犬のトイレのお手伝い」というテーマで、第1回発明コンテストが開催されました。楽な姿勢で犬の糞を回収でき、手を汚さずにトイレに流すことができる装置を開発するというものでした。

コンテストには10作品、6名の学生の応募がありました。いずれの作品もユニークなものばかりで、大いに盛り上がりました。

今回のコンテストで見事受賞に輝いた奈良田麻美さん(最優秀賞)、中村優子さん(優秀賞)、楠島悠介君(特別賞)に感想をうかがいました。

|    | 装置名称          | 製作者名       |
|----|---------------|------------|
| 1  | Fall in Box 1 | 岡野真佐代(CA3) |
| 2  | 引っ張りとりぞう      | 奈良田麻美(CA1) |
| 3  | Fall in Box 2 | 中村 優子(CA3) |
| 4  | フントリ          | 楠島 悠介(ME2) |
| 5  | カチャッ・ポイ       | 奈良田麻美(CA1) |
| 6  | S & F         | 岡野真佐代(CA3) |
| 7  | お助けPet        | 岩政 洋平(CA5) |
| 8  | とってMotor      | 中村 優子(CA3) |
| 9  | つかんで、ポイポイ     | 奈良田麻美(CA1) |
| 10 | 分解するんデス!      | 児玉 貴紀(ME2) |

## 貴重な体験への一歩

土木建築工学科1年 奈良田麻美

このテーマを聞いた瞬間、ただ漫然と「やってみたいなあと思いました。多分、それは単純に、「犬が好きだから。」という理由だけだったように思います。それからは、何かしていても、ふとそのことを考えている自分がいました。試行錯誤の日々の繰り返しだったように思えます。最初に

作った作品が納得のいく作品ではなかったことが、逆に言えば今回良い結果に出たように思います。しかし、結果発表の時、まさか自分だとは思っていなかったのが、本当に心の底から、ただただびっくりしました。

## アイデアコンテストで学んだこと

土木建築工学科3年 中村 優子

作品「とってMotor」を作り上げるのにはとても大変でした。まず、最初のアイデアとしてはローラーで巻き取るというものでした。しかし、それでは糞をつぶすことになるので、ローラーは諦めることにして他の方法を考えました。作品を考え始めてから作り終わるまでの4ヶ月間は、そのことが頭からまったく離れず、頭が痛い日が続きました。作品に納得がいかず、何回も改良しました。今回の作品作りでものをやることの大変さがよく分かりました。

## 発明コンテストに出場して

機械電気工学科2年 楠島 悠介

発明コンテスト出場理由は、賞金目当ての甘い考えからでした。しかし、製作してみると安さとシンプルさをモットーに製作したため、制限されることもありとても苦労しました。コンテスト当日、ほかの人の製品と比べ自分の製品がとてもしょぼく見えて大丈夫かなと思いました。だから、自分の製品がいかにか優れているかをアピールしました。そのかいもあって、特別賞を受賞しておいしい思いをしました。

最後に、今回のコンテストのテーマと副賞を提供いただきました菊浜工業株式会社代表取締役社長 石丸喜久様に心より感謝申し上げます。

(土木建築工科 助教授 渡辺勝利)

卓球部は今、男子12人、女子4人で活動しています。平日は、18時30分まで練習があって、基礎練習や課題練習をしています。土曜日には、9時～12時まで練習をします。1時間半練習をして、30分休憩してから、ダブルスや試合をします。普段の練習は今書いたような感じで、春休みと夏休みには、合宿があります。合宿は1日6時間練習をします。特に、夏休みの合宿は高専大会が迫っているため、皆必死で練習に取り組んでいます。

高専大会は、1年で最も大切な試合です。そのため、いつもの試合よりもすごくプレッシャーがかかります。今年は、米子での中国大会もすごく緊張したけど、それ以上に一関での全国大会はものすごく緊張しました。

ほとんどの試合が、競り合う試合だったのでずっと緊張していました。「後1点で勝てる」という時に、ミスをしてしまいました競り合う、という事も何回もありました。後1点相手に点が入ったら負けるという状況の時には本当に手が震えてしまって、精神的にも辛かったです。

辛い試合だったけど、嬉しい事もありました。それは、同じ地区の選手が応援してくれた事です。



## クラブ紹介 卓球部



## 全国大会女子の部 優勝

情報電子工学科4年  
宮根 明日香

中国大会の時には、全国への出場権を獲得するために試合をしたけど、同じ地区として応援してくれたことに感激しました。私達も同じ地区を応援したりして、仲良くなる事ができて本当に嬉しく思いました。他の地区の人とも、泊まる場所が同じだったため、たくさん話をして、仲良くなれました。試合は大変だったけど、多くの人と知り合えた事は本当に良かったと思います。

部活は、時々辛くて辞めたい時もあるけど、全国で優勝した時は今まで練習してきた本当に良かったと、実感しました。練習の成果がでた時の嬉しさがあるから、辛くても練習を続けられるんだなと思いました。

今、卓球部には1、2年生の女子がいないため今のままで3年生が卒業してしまったら、女子がいなくなってしまう。だから今年は新入生の子に絶対に部活に入ってもらいたいと思っています。

来年で最後の高専大会です。最後に悔いの残らないよう、今から一生懸命頑張って皆で全国を目指したいと思います。

## 女子部員募集中



# 私の研究

## 計算機を用いた 電磁界過渡現象の視覚化

情報電子工学科 助手 原田 徳彦

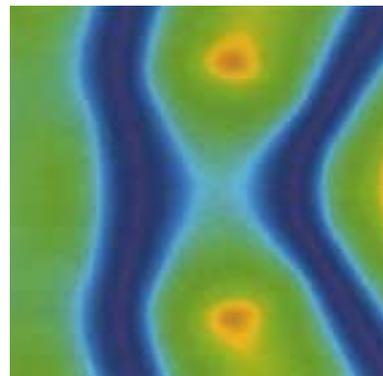


有限差分時間領域法と呼ばれる電磁界の解析アルゴリズムについて研究を行っています。マクスウェル方程式はアンペール則とファラデー則の2つの微分方程式を持ちます。それぞれに電界と磁界の時間微分、磁界と電界の空間微分を含んでいます。時間に等間隔なステップと空間にセルと呼ばれる小領域の区画を設けて、時間と空間の微分方程式を中心差分を用いた差分方程式に置き換えたものを漸化式として、初期条件から時間軸に沿って電界と磁界の値を交互に更新するものです。コンピュータは1タイムステップにおける電界と磁界の空間的な情報を保持しておく必要があります。しかし、メモリの制限から空間全ての情報を保持することはできません。情報を保てない領域の電磁界の更新は出来なため、電磁波はその境界まで来ると誤って反射して帰ってきてしまいます。これでは解析対象の領域が干渉されて、導波路やアンテナの解析が行えません。そこで、境界での反射を抑えるアルゴリズムが新たに必要となってきます。

私の研究テーマは非格子セルを用いた時間領域法へのPML (Perfectly Matched Layer) 吸収境界条件の適用です。解析対象の領域の外側に仮想的な吸収材料を設けて反射を抑えることから吸収境界条件と呼ばれています。空間に微分方程式を用いる従来の方法では、空間を4角形のメッシュに区切る必要があり、誘電体などの曲線表面形状では階段近似により計算精度が落ちてしまう問題がありました。それを任意形状のセルを用いることで解消する方法が非格子セル時間領域法です。この方法に先ほど述べた反射を抑えるアルゴリズムを適用することが研究目標です。反射を抑えるアルゴリズムはマクスウェル方程式自身を加工する必要があります。電磁波を厳密に無反射吸収する物質は実在しないからです。コンピュータだからこそ、それを実現させてしまうのです。私はこのプロセスを非常に興味深く感じます。この

処理は自然界の原理を目的に合うように変更して進めなければならない(進めてよい)仕事だからです。誤解の無いように書きますが、解析の対象となる空間においては自然原理に則した結果を得ることが必要です。微分方程式を前提に考えられたPML吸収境界条件は、積分形式を用いる非格子セルにはそのまま適用できません。積分形式のアルゴリズムにそのアイデアだけを取り入れる方法を考案しました。この方法は非格子セルにおいて適用できるものの、広帯域での吸収特性は十分なものではありませんでした。それは微分形式の条件が積分形式のそれより厳しく、等価な条件ではなかったからです。そこで、厳密に等価となるように微分形式の条件をつくり3角形セルに適用しました。今度は十分に広帯域な吸収特性を得ることが出来ました。この方法は曲線形状を持つ誘電体柱による電磁波散乱問題や任意形状の折れ曲がり導波路などの解析に有効となります。

時間領域の解析手法では視覚的に現象を観察することができ、シングルパルスの時間応答から周波数応答を得ることもできることから、デバイスの開発や教育に今後さらに活用されると思われます。私は今、この研究が電子回路の基礎教育に役立つものと感じています。電流など目に見えないものを視覚化し、過渡的な現象を実感できるようになるからです。



誘電体円柱による電磁波の散乱現象  
(電界強度をカラー表示したものです)



## 地元企業紹介 東洋鋼鈑



### 第17期 機械電気工学科卒業 工務部設備企画G

## 勝谷 悟志

私が徳山高専を卒業し、東洋鋼鈑に入社して8年になります。入社後すぐに社内の留学制度により4年間大学へ通ったので、現在の仕事を始めて4年になります。まだまだ一人前とはいきませんが、最近比較的大きな仕事をまかされるようになり、仕事の苦労とともにやり遂げた時の充実感等を感じるようになりました。

これから社会に出ていく皆さんの参考になるかわかりませんが、東洋鋼鈑および私の仕事の紹介とともに、高専生への期待等を記させていただきます。

### 東洋鋼鈑の紹介

東洋鋼鈑は徳山市の隣、下松市に工場があるので、名前をご存知の方も多いのではないかと思います。昭和9年にブリキメーカーとしてスタートし、主に缶用材料を中心に生産してきました。缶用材料以外にも、ブラウン管用シャドウマスクを始め様々な商品を開発してきました。最近では圧延、表面処理、ラミネート等の技術を活かして、磁気ディスク用基板（MD）やクラッド材、DNA保存のダイヤモンドチップの製造等新分野も積極的に進出しています。

### 私の仕事

私は下松工場の工務部という部署に所属し、省力対策、新ラインの建設や工場設備の改造・更新の企画から設計、設置工事等を担当しています。

そのような中で、今年の初めから、燃料転換工事に重点的に取り組んでいます。従来下松工場では、鋼板の熱処理等を行う設備の燃料ガスにLPGを使用してきましたが、年明け完成を目前にLNGへの切替えを推進しています。それに伴い、設備

に使用している全バーナーをLPG仕様からLNG仕様へ更新していくという仕事を行っています。燃焼設備を担当するのは始めてで、苦労もありますが、毎日がんばっているところです。

私たち工務部の仕事の失敗は、生産ライン停止となるため、大きなプレッシャーを感じることもあります。しかし、自分が企画・設計した設備がそのまま形として残り、何十年も使ってもらえるというのは、非常にやりがいのある仕事だと感じています。

### 高専生への期待

私を含め、高専卒業生は一般常識がない、語学が弱いとよく言われます。早い時期から専門を学ぶため仕方ない部分もありますが、語学（英語はもちろんですが、これからは中国語ができるかなり役立つと思います）はこれから必ず必要になるので是非勉強してほしいと思います。また、以前部長から「これからは、最低でも得意なものが2つ以上ないとイケない。語学でも何でも良いから自分の専門以外にもう一つ得意なものを持たないとイケない」と言われました。みなさんも、それぞれ自分の得意分野があると思いますが、得意分野を磨くとともに他のことにもどんどんチャレンジしてほしいと思います。

初めにも書きましたが、高専卒業後、実務経験を積むことなく、大学へ4年間通いました。この4年間は、専門的な勉強はもちろん、学外の人の付き合いを通じて様々な経験を積むことができました。今思うのは、2～3年仕事を経験した後、大学に進学していたら、勉強だけでなく、社会人として何が必要なのか考えながら生活でき、もっと充実した生活ができたのではないかと感じています。目的をもって生活するのと、なんとなく生活するのでは大きな差がでます。みなさんも将来何をやりたいのか早く決めて、充実した学生生活を送ってほしいと思います。

# 土木の日コンテスト

## 『レッサーパンダの遊び場』

土木建築工学科 教授 工藤 洋三

土木建築工学科では、「土木の日」に、徳山動物園で市民を対象に間伐材で動物の遊び場をつくるコンテストを開催しています。一般にはあまり知られていませんが「土木の日」は11月18日です。「土」という字を分解して「十一」、「木」という字を分解して「十八」と、これは漢字圏の人にしか理解できない関係ですが、とにかく「土木の日」は11月18日です。土木工学が市民生活と密接に結びついた学問であることを広く知ってもらうために、「土木の日」関連の行事を行うことを土木学会が推奨しています。

毎年7月にコンテストの内容を発表して参加者を募集します。参加者が使用できる材料は主催者から提供される直径60mmの間伐材だけで、9月下旬には参加者に間伐材をとどけます。参加者はコンテストのルール範囲内で独創的で対象となる動物が楽しく遊べるような遊び場をつくりますが、コンテスト当日会場に持ち込めるのは加工したパーツのみ、組み立ては会場で行わなければなりません。

今年のコンテストは11月17日、秋晴れの徳山市立動物園中央ステージ付近で開催されました。参加チームは11チーム、このうち2チームは徳山



高専専攻科の学生、3チームが本科生でした。審査委員長は動物園の園長さん、審査委員の一人も動物園の方で、動物の立場に立って厳しい審査が行われます。参加者の中には、第1回日の最優秀賞を獲得した橋本道雄さんのチーム、昨年の最優秀賞を獲得した町田宏次さんのチームと強豪揃いでした。



結局、最優秀作品は、「夜な夜な学校に集まり、木屑の臭いにつつまれながら」試行錯誤を重ねたという徳山高専環境建設工学専攻2年生のチームに決定しました。作品は1m<sup>3</sup>内に収まるという条件をギリギリでクリアし、中央に螺旋状の階段を配して、レッサーパンダの遊び心を刺激するもので、審査員からも高い評価が与えられました。2位には連続出場の洋林建設の坂本修さん親子の作品が選ばれました。入賞は逃したものの、徳山高専本科生の作品も昨年の失敗の経験を生かしたもので完成度も高く好評でした。

最優秀に選ばれた専攻科2年生の作品は、動物園の人たちの手によってさっそくレッサーパンダのオリの中に運び込まれ、参加者注視の中、レッサーパンダが螺旋の階段を登って行きました。



# 里山づくりと 炭焼き

土木建築工学科 教授 工藤 洋三



私は徳山市の須々万という地区に住んでいます。移り住んで約10年、今ではすっかり地元の風土にとけ込んでいます。現在私の地域での活動は、「緑山に親しむ会」の活動が中心です。緑山も以前は地元の人たちの生活の場として整備されていましたが、生活スタイルの変化にともなって樹木を伐採したり草を刈ったりという作業が行われなくなり、荒れるにまかせていました。会は須々万の緑山(614m)をもっと多くの人に活用していただくことを目的にした団体です。つい先日も緑山山頂に大きな標識を設置しました。



「緑山に親しむ会」の活動は、まず徳山市の許可を得て視界を遮っていた山頂付近の樹木を伐採することから始まりました。伐採した樹木を有効利用する方法はないか、という問題意識の中で炭焼きの話が持ち上がりました。樹木を蒸し焼きにして(乾留して)木炭をつくるわけですが、樹木と木炭の関係は、石炭とコークスの関係に似ています。

従来の本格的な炭焼きだと炭が出来上がるまで2~3日を要します。現在全国的に普及しているのはドラム缶を使用した簡易の炭焼き窯です。イ

ンターネットを使用してドラム缶炭焼きの方法を学び写真のようなドラム缶窯を試作しました。

実際に炭焼きをしてみると、テキストに書いてあるようにはうまくゆかず試行錯誤を繰り返しました。「煙の色を見ながら火を調整する」というのが職人の技のようです。そうした職人気取りを排して、煙の温度を測定してみようと考えたのが成功への転機になりました。

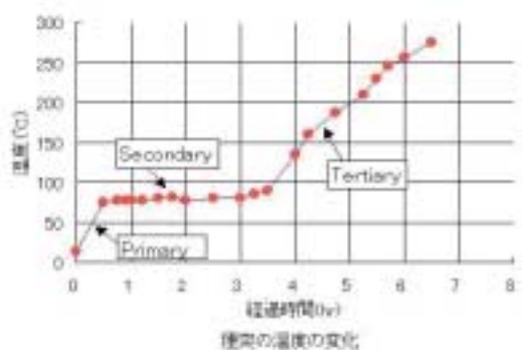
図は煙突の煙の温度の変化を示したものです。焚き口に火を入れて1時間もしないうちに78度まで温度が上昇しますが(第1段階)、それから2

~3時間はほとんど温度の変化がありません(第2段階)。実はこの間供給された熱によって木材中の水分が水蒸気になって煙突から出ていっているのです。

やがて温度が80度を越えるようになると「自燃」と呼ばれる段階になります(第3段階)。焚き口を狭めて温度を一気に上昇させるとこれまで勢いのあった煙が、ゆっくりとした紫煙の状態になって炭焼きの終わりを告げます。

煙の色などを見ながら炭が出来上がる過程を体験するのはもちろんですが、むしろ皆でワイワイ言いながら時

を過ごすのが炭焼きの楽しさなのかもしれません。





# 歴史とロマンのまち むろづみ



庶務課  
テクノ担当  
山本久美子

周防の橋立と呼ばれる象鼻ヶ岬、秀麗な姿が中国の峨嵋山に似ているところからそう名付けられたという峨嵋山、1006年に創建された歴史豊かな普賢寺、そして瀬戸内海交通の重要な港として栄えた室積は、今も往時のなごりを偲ぶ様々な歴史に出会えるまちです。



山門とまづりの様子

5月になると心がうきうきします。もうすぐ普賢まつり。小学生の頃、おまつりの日は、午前中で授業が終わり、家族でおまつりへ出かけられるというすてきな一日を過ごしていました。

このおまつりはお寺を開かれた性空上人というお方の命日に合わせて安土・桃山時代から続いている有名な大祭です。2000年には「1千年の御開帳」が行われ、みんなでお参りました。境内とその周辺は300余りの露店が並び大勢の人々で大賑わいでした。

最近では、第4日曜日に骨董市とフリーマーケットが一体となった「普賢寺今昔市」が境内で開催されています。骨董品がお好きな方、フリマフリークの方には、ぜひおすすめ。すてきなものに出会えるかもしれませんよ。私も、筆の産地で有名な熊野の筆屋さんが出店しておられたので、小筆を2本買い、

「字が上手になりますように…」

と普賢様にお願いしました。

そして、名物の「ささげおにぎり」や「お寿司」がとてもおいしかったです。

境内の奥まった森の中には、山口県の文化財（名勝）に指定されている雪舟作とも伝えられる枯山水の石庭があります。

画聖雪舟が中国で学んだ禅思想と山水画の極地を表した庭です。

「中国の黄河中流は、黄土高原の丘陵が迫り、川幅が狭く、逆巻く激流で、なかでも三段の滝のある『龍門の滝』は、ほとんどの魚が遡上できない。ただ鯉だけが登りきることができ、その登りきった鯉は龍と化し、天に昇るといふ。それが登龍門の故事でもある。」（週刊「古寺をゆく」引用）滝と鯉の形を石で組んだものを龍門瀑りゅうもんぼくといい、この故事をテーマにしてつくられた庭が普賢寺庭園です。

このことを知って観ると、より一層深い味わいがあり、時間をたつのも忘れて庭と対話している自分を発見します。忙しい現代人にとっては、自分を見つめる大切な時間を得ることができます。



枯山水の庭

普賢寺から続く「海商通り」を早長八幡宮まで歩くと、藩政時代、瀬戸内、海上交通の重要な港町として栄えた室積の、往時の栄華をみることができます。

海商通りの中ほどに光ふるさと郷土館がひときわ年月の重みを示して開館しています。ここは、室積の繁栄した港町の中心的廻船問屋と、分家で醤油醸造販売業者の家屋や醤油蔵などを生かし、「北前船の寄る港町」の資料を中心にして、写真、パネル、模型、絵画等で展示してあります。たいへんわかりやすく、気軽に立ち寄れる所でした。

中庭には、大銀杏の木があり、12月にはイルミネーションで飾られ、ツインクルコンサートなども開かれています。



光ふるさと郷土館

展示室では、いろんな方々の作品展があり、訪れた人々の目をひきます。2月から3月には、郷土の作家10名の方の陶芸展、3月から4月には、木工展が予定されています。

下の写真は、私のお習字教室の先輩、田中義一さんが書道展をされた時の写真です。室積在住の田中さんは、俳人「種田山頭火」に強くひかれ、山頭火が室積を訪れた時に詠んだ句を書かれています。



時は昭和8年5月14日。

現在の三谷薬局の前の山根さんのお宅の2階に下宿をされていた女子師範学校の教師で俳友の大前誠二先生を訪ねて、普賢まつりでにぎわう室積に山頭火は訪れました。まつりでにぎわう町中や御

手洗湾などの散策、夜はお酒を酌み交わしながらの俳句談義で過ごし、まつりを堪能したようです。そして翌昭和9年3月22日、再び室積を訪れています。

海岸沿いのみたらい公園には、下宿を発つ朝の置き手紙に残した句の句碑「わがまゝな旅の雨にぬれてゆく」があります。そのほかにも、山頭火の句碑は、光ふるさと郷土館や、普賢寺裏にある88カ所一番札所に建てられています。現在でも、俳句を作られる方々が、室積をたびたび訪れて、よい句をつくられておられるようです。



山頭火の句碑

本当に歴史の名所の多い室積。弘法大師が中国から帰朝の折りに、上陸し、護摩供養をされたといわれる象鼻ヶ岬の、突端には御堂があり、弘法大師像が建立されています。ここは、初日の出を拝む山口県のベスト3にも選ばれており、毎年1500人くらいの方が訪れているようです。

ほかにもたくさん名所があり、毎年10月には、山車が威勢よくねりあるく賑やかな秋祭りが行われる早長八幡宮、室積女台場、鼓ヶ浦の峨嵋山神社、奉納相撲が行われる杵崎神社、フィッシングパークひかりなど訪れる場所はたくさんあります。

歴史深いまち室積、私も光市に住んでいながら、初めて知ったことがたくさんありました。今回の街角ウォッチングで、室積を知ることができたので、光市を訪れた方へ室積をご案内することができそうです。みなさんもぜひ光市室積へ足をお運びください。

|          |                            |
|----------|----------------------------|
| 光ふるさと郷土館 |                            |
| 入館料      | 一般・高・大生 220円<br>小・中学生 110円 |
| 休館日      | 月曜日・第1火曜日<br>年末年始          |
| 開館時間     | 9時～17時                     |

資料提供：光市観光協会、普賢寺



## 退任のごあいさつ

機械電気工学科 教授 前園 一郎

たいへん長い年月にわたりまして、徳山高専に奉職させて頂きましたが、その間、多くの学生の皆様方とともに過ごすことができましたことは、ほんとうにすばらしいことでありました。

学生はみなそれぞれにすばらしい特性を持っており、その日々向上してゆく姿を見ることは、誠に感激であり、驚きで

ありました。毎日がとても新鮮で、新しい発見の連続であったように思います。それは今も変わることはありません。

教職に携わってみまして、教育の道も学問の道もほんとうに高く険しいものがありますが、いつも理想を求めてたゆまぬ努力を続けることが大切であると思っています。

教職員の皆様方には、この上もなくお世話様になり、ほんとうにお礼の申し述べようもございません。

学内外ともに諸事多端のこの折に退きますことは、誠に申し訳ない思いですが、これからは、初心に戻って努力してまいりたいと考えております。

皆様方の益々のご健康とご多幸を念願いたしましてお礼のごあいさつとさせていただきますと思います。ほんとうに有難うございました。



## ありがとう徳山高専

事務部長 藤田 精一

広報委員長から、退官に際して何かメッセージをと言われて、予定事項であり、確定事項であるはずなのに、何故かウロたえた自分に驚いています。

教職員の皆様へ

私は、本校で5県7機関にわたった公務員生活に終止符を打ちます。

振り返ると多くの方々に助けられ、公私両面にわたってお世話になりました。

あの顔、この顔、そしていろいろな情景が走馬灯のように目に浮かび、思いは尽きません。管理者として、私は自分が勤務してきた学校のあるべき「かたち」

を追い求めてきました。常に効詐に惑わされず拙誠を見抜く眼力を養い、職員が率直にものを言える風土を作ろうと、敗者復活を含めたしなやかな信賞必罰を心がけてきました。そして常に学生の目線で学生をサポートするサービスが提供できる学校に育て上げるように頑張ってきました。

この思いを皆さんに残してゆきたいと思います。

学生の皆様へ

中国の古典に「日に新たにして、また日に新たなり」という言葉があります。日一日と自分を新たにし、過去の考え方や、やり方にとらわれず、日々に向進歩してゆくという考え方です。皆さんは「世界に通用する実践力のある開発型技術者の育成」を教育目標に掲げた徳山高専の学生です。この思いを強く受け止めて欲しいと願っています。

私の仕事の性格上、学生の皆さんと深く関わることは多くありませんでしたが、徳山高専を愛する者の一人として、これからの皆さんの活躍を期待しています。



## 「...あれから28年」

庶務課図書係主任 **谷村 道子**

この3月で定年退官を迎えます。ふり返ってみますとあつという間の年月でした。

昭和50年4月、旧富岡小学校の仮校舎で辞令交付があり、最初は土木建築工学科事務室に勤務しました。

今では「うっそ～お!」「信じられな～い」と言う話なのですが、当時は“電卓”がとても高価

な品でした。学生個人が持つことが出来なかったので、学科事務室で貸し出しておりました。学生達が電卓を借りて学科事務室に出入りをしていましたので当時の1・2期生の顔は今でもよく憶えています。

今は立派になって学生の教育に携わっておられます田村隆弘先生や熊野稔先生もその頃はとても純朴な紅顔無垢な美少年でした。また、今は佐賀先生の奥様になられた旧姓村上典子さんも当時から美しい純情可憐な乙女でした。いろんなことが次々に浮かんで思い出は尽きません。

退職後は数年前に友人に誘われて行き始めた山登りをして元気なうちに100登山を目指してみたいと思っています（夢で終わるかも…）。

皆様方の暖かいお力添えを頂き無事退職出来ますことを感謝いたしております。

最後になりましたが、皆様のご健勝と徳山高専のますますのご発展を心からお祈り申し上げます。



## 退職に思う

校長秘書 **金弘 淑子**

徳山高専も、もうすぐ創立30周年を迎えようとする頃、私も退職することになり、初代校長城温三先生、また、初代事務部長澤井茂雄部長様の時代から、25年間お世話になりました。

今、時代の流れをしみじみと思い、仕事を精一杯やってきたつもりですが、あの日、あの時を思い、数々の御指導を頂き、私にとって貴重な教訓、思い出となりました。

振り返ってみますと、今はお亡くなりになった初代城校長先生、思えば、あの頃、講話や原稿など、「今からしゃべるのですぐに書いてください」とおっしゃって速記のようにいつも書いていたこと等、時代は流れ、正にITの時代となりました。

難しいことはわかりませんが、また、昭和から平成に変わり、福岡校長先生の頃、留学生の受け入れがはじまり、校長室にも来て対応に戸惑ったことなど、それから、産学連携やテクノセンター等、多くの方が学校に来られるようになりました。

時は流れ、学校の施設等も良くなり、つい最近では夜間照明設備もできました。

この間、いつも一期一会の気持ちを忘れず、校長室や部長室への来室ができるよう心がけてきたつもりです。また、仕事の連繫を大切にしてきました。素晴らしい先生方や、皆様方に出会い、ご指導賜り、温かい心に支えられて、微力ですが今日まで勤めることができましたことを心より感謝申し上げます。

学生のみなさんとは、仕事をしたことはほとんどありませんでしたが、なんとといっても、ロボコン大会のことが忘れられないでしょう。また、今年の高専祭のテーマ「花咲かす」のように、花壇の花も、いつまでも美しく咲かせてください。

昨年、2002年のスタート、フレッシュな天野校長先生をお迎えしましたが、また新しい時代になり、素晴らしい学校になることでしょう。

徳山高専、高城の丘、高専坂……長い間、お世話になりありがとうございました。



庶務課人事係

かばむら ゆうじ  
**椀村 裕二**

- ・ご出身はどちらですか？  
お隣の下松市です。高校時代は徳山にも遊びにきていたので久しぶり、といった感じです。

・本校にこられる前はどちらに？

京都の半導体企業に昨年11月まで勤めていました。京都市内にいながら訪れた名所が金閣寺だけだったのが少し心残りです。

・徳山高専の印象は？

普通高校とあまり変わらない所と思っていましたが、1コマ90分制、前期後期の2学期制、各研究室で教授・助教授の方々が日々研究・実験を行っている点などむしろ大学に近い所という印象を受けました。

・ご趣味はなんですか？

前の会社に勤めていた頃は、マイMDを作るのが趣味で2、3週間に1枚位の割合で作っていました。ここ一年中断していましたが大分落ち着いてきたのでそろそろ再開しようかと思っています。

・今後の抱負をお聞かせください

徳山高専の一員として一刻も早くお役に立てるよう頑張りますので宜しくお願いします。

## トピックス

専攻科環境建設専攻

## おめでとう

## 二級建築士4名合格

専攻科環境建設専攻の1年生、有海里美さん、大久保奈月さん、岸村麻衣子さん、2年生の森川竜太郎君が、6月に行われた1次試験（学科試験）と、9月に行われた2次試験（木造住宅の製図）を無事通過して、この度見事に二級建築士に合格しました。受験した4名全員が合格したということは大変喜ばしいことです。昨年に続いての合格で、専攻科での勉強の成果でしょう。



二級建築士の有海、大久保、岸村さん



森川君

## 編集後記

今年度の広報委員会の目標である、学校要覧の改訂、学校案内と高専だよりのA4判化と、内容の全面改定を達成することができました。学校案内は大変好評で5000部印刷し、中学校へ訪問しての学校説明会、体験入学や高専夢広場で配布しました。徳山高専だより55号も色々な反響がありました。教官や学生、高専祭に来られた父兄からも大変読みやすかったと、好意のご意見を頂きました。高専だよりを配布した日の放課後、教室を見て歩き、放置されたりゴミ箱に捨てられた高専だよりを回収します。55号は20部程度回収しました。これは大変少なく、家に持ち帰り保護者の方にも読まれているものと思われます。活字離れの若者に受け入れられるためには、グラビア誌のように写真を多くし、視覚に訴える編集をしなければなりません。原稿を依頼すると頑張りすぎて長く書かれるのが悩みです。少し奇抜な編集をしているようには思いますが、オーソドックスな編集を知らないわけではありません。



ホームページは原田委員の担当で、高専夢広場や学校案内を追加してもらいました。頻繁に更新し、色々な出来事をタイムリーに掲載しました。

この56号は高専祭、ロボコン、プロコンなどのいつもの内容になってしまいました。独法化やJABEEと、高専も大きく変化しようとしています。少しおもしろくするために、情報電子工学科5年の妹尾君に、先生の顔写真を基にイラストにしてもらいました。今年の忙しかった編集作業もやっと終わりました。協力してくれた皆さんありがとう。

編集責任者 重安 邦之

## 平成14年度広報委員会名簿

|      |           |       |
|------|-----------|-------|
| 委員長  | 情報電子工学科教授 | 重安 邦之 |
|      | 一般科目講師    | 長廣 恭子 |
|      | 機械電気工学科教授 | 前園 一郎 |
|      | 情報電子工学科助手 | 原田 徳彦 |
|      | 土木建築工学科教授 | 大成 博文 |
|      | 庶務課長      | 上甲 克和 |
|      | 学生課長      | 山岸 正  |
| イラスト | 情報電子工学科5年 | 妹尾 北斗 |